

立科町合併60周年記念
町勢要覧 2015



発行
長野県北佐久郡立科町

【立科町役場】
長野県北佐久郡立科町大字芦田 2532
電話 0267-56-2311(代)

[発行日] 平成27年(2015)11月
[編集] 立科町勢要覧編集委員会

FSC認証紙と環境にやさしい植物油インキを
使用して高精細300線で印刷しています。



立科町合併60周年記念

【町勢要覧】2015



蓼科山の麓に広がる町

Contents

輝く町の宝 —

四季彩絵巻	2
中山道と古東山道	10
受け継がれ育まれていく伝統芸能	12
みどころ探訪	14
自然風土を生かした食と農	16
暮らしを支える水路「堰」	18

輝く町の未来 —

人と自然が輝く町	20
健やかに、いつまでも地域で暮らせるまちづくり【保健・福祉】	22
郷土を愛し、心豊かな人を育むまちづくり【教育文化】	24
活気ある経済を創造するまちづくり【産業振興】	26
豊かな自然とともに暮らす安全・安心なまちづくり【生活・自然環境】	28
地域力で活力あふれるまちづくり【協働・自治】	30
未来へつなげよう交流の輪!	32
立科町イラストマップ	34
クローズアップたてしな	36

資料編 —

立科町60年のあゆみ	38
立科町の概要・統計資料	56
施設一覧	67
アクセス	68



立科町長 米村 匡人

新たなる未来へ

自然・歴史・文化等を多く有する立科町が今年で合併60周年を迎えました。

「協働のまちづくり」による自立への選択から10年と立科町では、少子高齢化・子育て支援・地域福祉など多くの課題を皆さんと一緒に新しい町づくりに取り組んでまいりました。「想い」「思い」を大切に新たな10年間を、立科しあわせプラン～第5次立科町振興計画～で描く町の将来像「澄んだ空、清んだ水! 住みよき町に笑顔が弾む! 人と自然が輝く町」を目指していく所存です。

先人から引き継いだ豊かな自然を新しい世代の若者たちに継承し、新たな未来に向けて発展を続けていけるよう活気ある経済の創造の為に農業・商工業・観光業振興等の施策に取り組んでまいります。

合併60周年記念誌、町勢要覧をご覧いただき、町の現況をご理解いただき、「人と自然が輝く町」を目指し、地方創生を進める新たな町づくりに一層のご協力をお願い申し上げます。

The Mayor Tatehina Town Masato Yonemura Toward a New Future

This year marked the 60th anniversary of the inter-municipal amalgamation that gave rise to the Tatehina town with its wealth of natural, historical and cultural treasures.

It has been ten years that we opted for independence through "Cooperative Urban Creation." Since that time we in Tatehina have been working together on new urban creation, facing multiple issues such as ageing population and lower birthrate, child raising support, and regional welfare. Treasuring thoughtfulness and considerateness, we intend to spend yet another ten years working to advance our "Tatehina Happiness Plan," the 5th Tatehina Promotion Plan, which describes the future of Tatehina with its blue sky, sparkling natural springs, a town where it is easy to feel at home, and where smiling faces are never missing. In short, a town of thriving people and resplendent nature.

New generations of young people will take over the rich natural setting inherited from our predecessors and continue living here in joy and gratitude. In order to create a vibrant economy so as to proceed on our way to a new future, measures will be taken to promote areas such as agriculture, commerce and industry and tourism.

This 60th anniversary brochure is published in hopes that readers may take a look at our town and appreciate the shape of Tatehina as it presents itself today, together with an invitation to join us in regional and new urban creation with the aim of achieving a town of thriving people and resplendent nature.



ものの芽の麗しき香りに誘われて



朝日の丘公園



カタクリ



スズラン



りんごの花

Spring

花木の彩り、野鳥のさえずり、優しく頬をなでる風…
長い眠りから覚めた生命の息吹に、不思議なほどに心が満たされます。



無量寺



清らかな空と緑に涼を求めて



白樺高原花火大会



アヤメ



サラサドウダンツツジ



蓼科山と女神湖

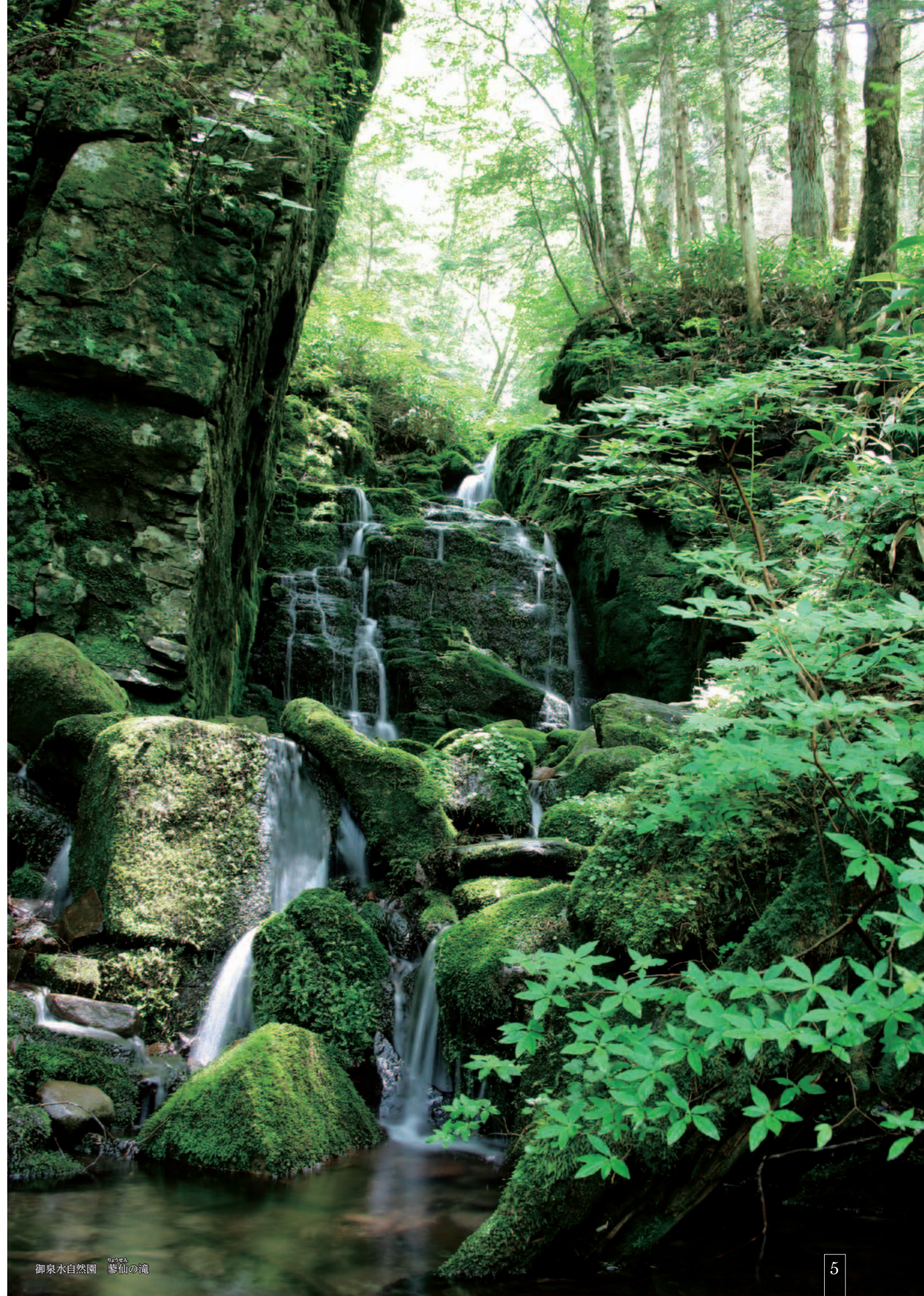


蓼科第二牧場

Summer

涼を感じる水の音、清々しい空気、透き通る青空と輝く緑…

五感で感じるすべてが、心と体を癒してくれます。



御泉水自然園 蓼仙の滝



美しき錦の光に魅せられて



Autumn

錦模様にも染まる木々、味わい豊かな実り、郷愁を誘う風景…
美しいふるさとの風土が、特別な感動を与えてくれます。





白く鮮やかな輝きを探して



光徳寺



自辨高原国際スキー場



しらかば2in1スキー場



幸せの鐘



夕陽の丘公園



しらかば2in1スキー場

Winter

大地を覆う白銀と静寂、陽光を浴びて輝く樹氷…
青と白が織り成す世界、自然が生み出した美しい瞬間に出会えます。



御泉水自然園



笠取峠のマツ並木

かさとりとうげ

【長野県天然記念物】

The line of pines in Kasatori Pass

中山道



松並木公園



中山道 芦田宿から次の長久保宿までは長い峠道で、夏の暑い季節は疲れと暑さで旅人が思わず笠を取ってしまうため「笠取峠」と呼ばれるようになりました。この難所ともいえる街道沿いに、徳川幕府は松や杉などを植えさせ、旅を快適にするよう努めました。現在も芦田宿の西方1kmほどの場所から笠取峠にかけて約2kmにわたり、約70本の松が残っています。いずれも樹齢は150~300年、往時の旅人の想いを想像させ、旅情を誘うこの道。立科町では「松並木公園」として整備し、保護に努めています。

芦田宿

あしたしゆく

中山道



Ashita shuku

【長野県宝】 旧芦田宿本陣土屋家住宅

慶長2年(1597)、岩間氏とともに芦田宿の開設に従事した土屋家は明治維新まで代々宿本陣を勤めました。現在の客殿は、寛政12年(1800)に再建されたもので、公家や大名の宿泊・休憩に使われていました。今も大名御宿泊を伝える宿札などが残されています。



旧芦田宿本陣土屋家住宅

芦田宿は中山道69次の26番目に当たる宿場町。慶長2年(1597)に岩間忠助・土屋京左右衛門により「芦田宿立駅」についての願文」が出され設立されました。文久元年(1861)公武合体政策により14代徳川家茂に嫁いだ皇女「和宮」が江戸へ下る際、芦田宿本陣で昼食をとったとされています。

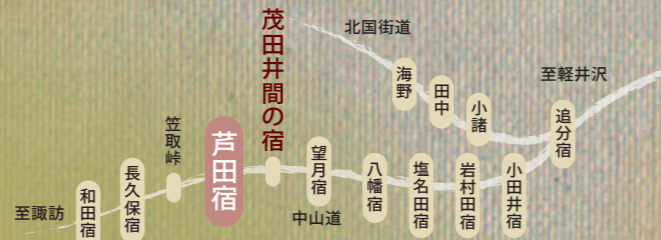
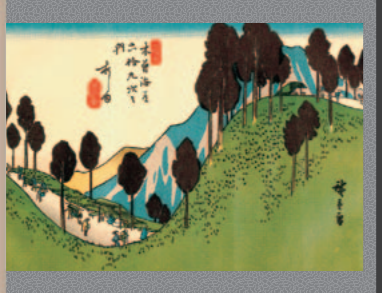
また、「東海道五拾三次」を描いた江戸後期の浮世絵師安藤(歌川)広重の「木曾街道六拾九次」(英泉版)には、芦田宿の笠取峠付近の景色が描かれています。



芦田宿

中山道と古東山道

古くから東西を結ぶ交通の要衝として栄えた立科町。雄大な自然が見守る中山道や古東山道沿いには歴史を物語る多くの史跡が残されています。かの絵師、安藤広重も魅了され、絵画をしたためた美しく、奥深い歴史の道を歩いてみませんか。



雨境峠

あまざかいとうげ

古東山道

Amazakai Pass



【町指定文化財】
与惣塚・中与惣塚

雨境峠の頂上付近、東側に蓼科第二牧場が広がるのどかな地にあり、旅の安全を祈願した祭祀遺跡で、鎌倉時代末期から室町時代初期のものと考えられます。

4~5世紀頃、大和朝廷が東国支配のための官道として開いた東山道。大宝2年(702)の令制施行を境に、古東山道と呼ばれるようになったこの道は、大和を発し、美濃から神坂を越えて、信濃に入り、諏訪から蓼科山麓の雨境峠を経て、毛野(群馬県)・武蔵・陸奥へと北に通じ、大和政権の東国統治の兵などが往来し、東西を結ぶ交通路として歴史的にも重要な道でした。

雨境峠には、5~6世紀頃の祭祀遺跡、鳴石・勾玉原・赤沼平・鳴石原・鍵引石などがあり、付近から滑石模造品類(勾玉など)が発見されました。模造品は、通行人が峠を越す際に旅の安全を祈り幣を捧げたものと考えられています。



鳴石【町指定文化財】

蓼科第二牧場の駐車場からほど近くに、鏡餅状に重なり合う2つの巨石、鳴石が見えてきます。雨境峠を中心とした祭祀遺跡群の一つで、その昔、風が強く吹くと鳴ったため、こう呼ばれるようになり、また、この石が鳴ると必ず天気が悪くなるなど数々の言い伝えが残されています。

東西の交流が盛んになった6~7世紀頃、蓼科の神が鎮座する磐石として祀り、通行人の旅の安全を祈ったとされています。



一里塚跡



茂田井間の宿

もたいあいのしゆく

中山道

Motai Ainoshuku

伝統芸能

『獅子舞』

外倉、古町、桐原、藤沢の4地区に受け継がれている伝統芸能の獅子舞。外倉は駒形神社で毎年春に、古町は蓼科神社、桐原は神明社、藤沢は駒形神社でそれぞれ毎年秋に行い、雌獅子1頭、雄獅子2頭から成る「三頭獅子」で、歌と笛・太鼓・三味線・鼓によるお囃子に合わせて獅子舞を奉納します。

道中行列で使う古町区の「蓼科神社秋祭用奉納屋台及び雅楽器一式」は町の指定文化財となっています。



外倉獅子舞(駒形神社)4月



古町獅子舞(蓼科神社里宮)9月



桐原獅子舞(神明社)9月



藤沢獅子舞(駒形神社)9月

『蓼科神社秋祭用奉納屋台及び雅楽器一式』【町指定文化財】

江戸中期に造られた総ヒノキ材で中二階造りの屋台。蓼科神社の秋祭(9月)で獅子舞とともに奉納されます。



先人が築き、地域の歴史や伝統の中で受け継がれてきた祭りや文化芸能。ふるさとを愛する想いととも受け継いでいきます。

受け継がれ 育まれていく 伝統芸能

文化財



光徳寺 不開門(あかずのもん)

芦田城二代城主芦田光玄が父・光徳の冥福を祈り1451年に建立したと伝えられています。正面入口の不開門は、江戸末期頃の建立と言われ、諏訪の宮大工、立川流の唐破風門造りで見事な彫刻が施されています。



津金寺 宝塔(滋野氏の墳墓)

【長野県宝】

津金寺は、約1,300年前の大宝2年(702)に僧・行基により開山。その後、最澄、円仁により僧侶の学問所である談義所が設けられたと言われています。宝塔は、東信一帯を支配した名族・鎌倉武士滋野一族の供養塔で、数少ない石像文化財。



大庭遺跡

縄文時代から平安時代にかけての複合遺跡。平成元年の発掘調査後、遺跡の保護・保存のために竪穴式住居・高床式倉庫が復元され、史跡公園となっています。



津金寺 観音堂【町指定文化財】

正面・側面に円柱が4本立つ方三間堂(ほうさんげんどう)という型式で、屋根は入母屋造り(いりもやづくり)、銅板葺き(元は茅葺き)です。



【町天然記念物】『神代杉』

蓼科神社の御神木。3度の火災によって梢を消失しながらも、今なお枝の一部が青々と茂り、樹高20m、幹周り約10m、樹齢は1,500年を超えと言われています。



町民まつり 立科えんでこ

平成2年から始まった町民総参加の「えんでこ」は、地域に根ざした手作り感あふれるお祭り。たてしな音頭や御泉水太鼓、元気いっぱい子どもみこしに、気迫みなぎる大人みこし、フィナーレの花火など、華麗に、そして力強く夏の夜を彩ります。立科の方言で「歩いて行く」ことを「えんで行く」といい、「こ」を付けて親しみやすく、かつ祭りの愛称にマッチさせ、第1回に町民から公募し、決められました。(平成2年8月5日命名)開催は、毎年8月第一土曜日です。

祭り

女神湖

白樺の立ち枯れが朝霧に浮かぶ時、夕暮れに光り輝く時、幻想的な世界を楽しませてくれます。約1.8kmの湖周はレンゲツツジ、スズランなど季節の花々が咲き誇り、朝夕の散策にも適しています。



蓼科第二牧場

蓼科ふれあい牧場から3kmほど北にあり、雄大な山並みを背景に、草原を駆け巡る馬やのどかに草を食む牛たちの姿を眺めることができます。牧場で味わう新鮮な牛乳やアイスクリームはまた格別です。



夕陽の丘公園

信州のサンセットポイント100選に認定された絶景スポット。眼下に白樺湖、車山、遠く北アルプスまで一望でき、山々の稜線が夕陽に染まるひとときは圧巻の眺めを誇ります。

ココロ潤す大自然、四季美しいふるさと

みどころ探訪

女の神山と呼ばれる蓼科山に抱かれた神秘の湖や高山植物の宝庫である御泉水自然園、風さわやかな高原牧場、動物とのふれあいや楽しい体験など、白樺高原の魅力あふれる自然が楽しめます。

蓼科ふれあい牧場

ヒツジやポニー、ロバ、ミニブタ、ウサギなど、広い牧場内にかわいい動物たちが放牧され、ふれ合うことができます。



白樺湖

信州を代表する高原ドライブロード、ピーナスラインのほぼ中央に位置する白樺湖。ポート遊び、湖畔のレストランやショップ、美術館、レジャー施設、温泉など、一年を通して楽しむことができ、多くの家族連れで賑わう観光スポットです。



御泉水自然園

蓼科ふれあい牧場からゴンドラリフトで約5分、蓼科山の中腹、標高1,830mに広がる自然園。苔むした原生林に囲まれ、数百種に及ぶ高山植物、野鳥、滝など様々な自然に出会うことができます。1周約40分の散策路が整備され、森林浴にも最適です。





ふるさとの
ぬくもりが育んだ
大地のご馳走



自然風土を生かした

食と農

蓼科山から湧き出る清らかな水、豊かな大地、恵まれた気候風土に加え、生産者の愛情をたっぷり注がれ育まれたりんごや米、高原野菜など、美味揃いの数々。「立科ブランド」と呼ばれる名産品を生み出しています。



高品質な良食味米

立科産コシヒカリ

米作りに適した重粘土の土壌と蓼科山からの湧き水に恵まれたコシヒカリ。立科産のブランド米として、販売されています。



美上下地区の高原野菜

レタス・白菜

清らかな水、冷涼な気候、長い日照時間などを生かして、高品質で低農薬な高原野菜が作られ県内外で販売されています。標高が高いため、病害虫が発生しにくく、粘土質の土壌により、葉のやわらかさとのかな甘み、水分をしっかり含んだ瑞々しさが特徴です。



蜜のたっぷり入った **りんご**

さわやかな酸味と甘み、シャキッとジューシーな果肉。日照時間が長く、昼夜の寒暖差が大きい立科町はりんご栽培に最適な環境にあり、良質なりんごの産地として全国的に有名です。



ふじ 11月上旬～11月下旬

ジューシーで甘みが多く、蜜が入りやすいのが特徴。

【りんご三兄弟】



秋映(あきばえ) 10月上旬～

濃い赤色と酸味の強さ、パリッとした歯ごたえが特徴。



シナノスイート 10月上旬～

甘みたっぷり、酸味が少なめで果汁もたっぷり。



シナノゴールド 10月上旬～

酸味と甘みのバランスが良い、濃厚な味が人気。



クラインガルテン



ドイツ語で「小さな庭」を意味する滞在型の市民農園。都市部などから週末などに訪れ、家族や仲間と野菜や花を育てたり、プチ田舎暮らしが楽しめます。



蓼科農ん喜村



地元の農家が生産した新鮮な野菜、果物、山菜など、多種多様な季節の農産物を直売しています。立科産りんごジュースやジャムなどのお土産品、立科産コシヒカリや旬の野菜を使った料理が楽しめる食事処もあります。



味処「のんき亭」

ふれあい市 菜ないろ畑



地元会員が運営し、採れたての野菜や果物をお客様と直接ふれあいながら販売する農産物直売所。手作りのお菓子や、立科産もち米を使った山菜おこわなどもおすすめ。



安心・安全で味が自慢

信州蓼科牛

【伊勢神宮奉納】

蓼科山の裾野で清涼な環境に恵まれ、のびのびと育てられた蓼科牛。柔らかく甘みのある味わいが楽しめます。



たてしなそば

冷涼な気候と澄んだ空気に育まれたそばは、風味豊かで栄養価が高いと評判です。





疎水百選 『塩沢堰』

農林水産省が選定する日本の農業を支えてきた代表的な用水「疎水百選」の一つが塩沢堰。蓼科山の湧水を源泉とする堰が開削されたことにより、それまで未開だった大地は美田地帯へと生まれ変わり、集落が形成され、良質な米やりんごの栽培の規模拡大など立科町の農業振興に大きく貢献しました。水道水源や親水公園などにも広く活用され、塩沢堰なくしてこの地域の発展はなかったとも言われています。



暮らしを支える水路『堰』せき

塩沢堰・宇山堰・八丁地堰



弁天神の出水

地域を潤す約55kmの水路 塩沢堰の開削

江戸初期の寛永12年(1635)、新たな開拓の地を求めて田屋原に移り住んだ初代六川長三郎勝家が、溜池を掘り水田を開いたものの、それ以上の開田は難しく他に水源を求め、寛永18年(1641)、蓼科山麓に弁天神(べていじん)の出水(です)と和見堰の源泉である水出(みずいで)を探し当てました。その後、私財を投げ打って里まで堰を掘り始め、正保3年(1646)に塩沢本堰40.8km、和見堰13.9km、総延長約55kmに及ぶ塩沢堰(長三郎堰とも呼ばれる)が完成しました。これにより、新田の開拓が始まりました。



宇山堰石樋

苦難の連続を乗り越えた 宇山堰の開削

宇山堰は、寛永14年(1637)年頃、芦田村の土屋庄蔵と遠山長作が蓼科山山腹の樅の木から湧き出している源水を探し当て、宇山開拓のために堰の開削を計画したもので、途中、岩場や急斜面の山腹など多くの難所があったものの、慶安年中(1648~1651)宇山古堰の疎水に成功。その後、黒沢嘉兵衛が新田づくりを計画して堰を掘り、八重原新田の開発を進めましたが、堰の決壊により、新たに宇山堰(上堰)と八重原堰(下堰)の開削に当たりました。寛文2年(1662)に完成したこの2堰を総称して宇山堰(全長約39.3km)と呼ぶようになりました。



八丁地堰

茂右衛門の人柄と度胸で乗り切った 八丁地堰の開削

八丁地堰は、八丁地川の水を当時の小平村の八丁地地籍で取水し、村内を通って茂田井村・芦田村・山部村の3村に通じています。正保2年(1645)、茂田井村の名主茂右衛門が中心となり、小諸藩の許可がないまま堰の開削に着手(内証普請)し、正保4年(1647)に八丁地の揚げ口から柳塔まで、およそ5.2kmの掘削工事が完成しました。この結果に、幕府領内の工事に関わろうとしなかった小諸藩も支援に動き、また、芦田村、山部村も堰開削に参加し、4年後の慶安2年(1649)には、全長約12.73kmの八丁地堰が完成しました。

塩沢堰と六川長三郎

六川家は、代々長三郎を襲名し、12代六川長三郎が平成22年に亡くなるまで代々立科の水の管理に努めていました。初代六川長三郎は、私財を投じて塩沢堰を開削し、塩沢、細谷、観音寺の3新田を開発すると「新田大将」「水の大將」と呼ばれるようになり、米を作りたいという農民には快く土地の権利を分け与えるなど、地域の人々への思いやりにあふれた人でした。その思いは代々受け継がれ、地域の人々から尊敬と親しみを込めて「大將さん」と呼ばれてきました。

立科町の水の歴史は、六川長三郎とともに歩んできたのです。

江戸時代初期、地域の暮らしを豊かにしようと新田づくりを考えた初代六川長三郎勝家により塩沢堰の開削が始まりました。以来、長い年月をかけ、多くの村人の手によって、蓼科山麓を水源とする「塩沢堰」、「宇山堰」、「八丁地川」から取水する「八丁地堰」が開削され、それまで未開の原野であった立科の広大な大地は大きな発展を遂げたのです。



1 健やかに いつまでも地域で暮らせる まちづくり

- 安心して暮らせる医療体制
- 高齢者の生きがいつくりの推進
- 母子保健事業と地域福祉の充実

2 郷土を愛し 心豊かな人を育むまちづくり

- たくましく羽ばたく立科っこ教育
- 子育て支援の充実
- スポーツで築く健康で豊かな人生と絆
- 心のふるさとと歴史のふるさと
- 男女共同参画社会の推進

3 活気ある経済を創造する まちづくり

- 町の魅力が活かした農業・農村づくり
- 魅力ある観光の振興
- 異業種連携による立科ブランドの推進
- 森林の整備と有効活用
- 活力ある商工業の振興

4 豊かな自然とともに暮らす 安全・安心なまちづくり

- 生活を支える水と自然環境の保全
- 住環境の整備と定住・移住の促進
- 交通網・公共交通の整備
- 日常生活の安全と防災対策の充実

5 地域ので活力あふれる まちづくり

- 協働のまちづくりの促進
- 地域コミュニティ活動の促進・支援
- 行政の透明化
- 計画的・効率的・効果的な行政運営
- 健全で持続可能な財政運営

人と自然が輝く町

澄んだ空！ 清んだ水！ 住みよき町に笑顔が弾む！

「住んで良かった」、「訪れて良かった」と幸せを感じられるまちづくりを目指します

A Town of Thriving People and
Resplendent Nature

健やかに いつまでも地域で暮らせるまちづくり

町民一人ひとりが健康増進に努め、病気にならないようにするとともに、健康で自立した生活習慣を身につけるための施策を展開しています。いつまでも住み慣れた地域で暮らし続けるためには、保健・福祉の充実が重要です。保健・医療・福祉の連携により、子どもから高齢者まで、障がいのある人もない人も、地域の支え合いや絆のなかで健やかに、安心して住み続けられるまちづくりを進めています。

People in Tateshina are health conscious and activities to increase health and avoiding illness are shared by everyone. Measures are taken to help citizens adopt lifestyles that promote health and independent living. In order to enable people to continue living in their accustomed surroundings also after reaching seniority, health preservation and welfare are essential. Through interaction among the fields of health preservation, medical care, and welfare, we have been promoting the creation of urban structures that allow for a life in health and peace of mind supported by regional mutual help and interpersonal bonds from infancy into high age, also in the presence of a disability.



母子保健事業と地域福祉の充実

少子化が進行するなかで、安心して妊娠・出産・子育てができる環境を整えることは、地域の将来にとって大切なことです。妊婦健診や乳幼児健診、相談、各種教室など母子の心身の健康維持のためのサポートや子育て支援の充実を図ります。

高齢者福祉として、元気うちからの健康づくり教室、地域包括支援センターによる介護予防事業、健康サポーターの育成などを進めています。また、障がいのある方が家族とともに安心して生活し、積極的に社会生活できるような機会創出や環境整備なども進めています。さらに、年間約20万人が訪れるやすらぎとふれあいの温泉施設「権現の湯」のサービスも充実させるなど、すべての町民が健やかに暮らせるまちの実現に取り組んでいます。



女神湖ウォーキング



あした塾

はつらつ健康講座

佐久医療センター

権現の湯

安心して暮らせる医療体制

社会環境の変化や生活スタイルの多様化が進むなか、近年、がん、心臓病、脳卒中、糖尿病、高血圧症などの生活習慣病が増加しています。立科町では、生活習慣病をはじめ、ガン疾患などの早期発見・治療、さらに重症化予防のため、特定健診、特定保健指導、各種ガン検診を実施しています。また、日頃の生活スタイルに沿った生活習慣の改善に向けて町をあげた保健事業に取り組んでいます。

立科町を含む佐久地域全体の医療を強化するために、平成26年、佐久総合病院佐久医療センターが開院しました。佐久医療圏において、専門医療と救急・急性期医療に特化した「地域医療支援病院」です。「かかりつけ医」との役割分担や連携により、総合的かつ高度な治療が可能になり、住民の安心と健康を支えています。

高齢者の生きがいつづくりの推進

人生80年の長寿社会を迎え、地域における高齢者の役割がますます大きくなっています。立科町では、65歳以上の高齢者のうち8割が介護保険を要しない元気な高齢者で、今後さらに、豊富な知識や経験、能力を生かして地域の担い手として積極的な役割を果たすことが期待されています。文化、スポーツ、レクリエーション、ボランティア活動など多様な分野で活躍し、生きがいをもって生活できる環境づくり、高齢者の負担の軽減や地域で支え合う福祉環境づくりを促進し、高齢者に優しい社会を築きます。

町長杯 マレットゴルフ大会▶



立科の自然に癒されて毎日イキイキ 町の健康をサポート

立科町健康サポーター
(佐久レクリエーション協会会員)

谷脇 良一さん

静かで美しい立科の自然に一目惚れし、20年ほど前に大阪から移住しました。この自然豊かな立科で、いつまでも健康で長生きしたいと思い、町の「健康サポーター養成講座」を1年間受講し、今は健康講座や介護ボランティアのお手伝い、ウォーキングイベントなど健康サポーターとして、毎日イキイキと活動に取り組んでいます。大切なのは“できることを、できる時に、できる人がやる”こと。これからも元気なまちづくりに貢献していきます。



郷土を愛し 心豊かな人を育むまちづくり



少年スポーツ大会

未来を担う子どもたちが、確かな学力と豊かな人間性を育むために、保・小・中・高連携を軸とした「立科教育」を推進するとともに、すべての町民が健康寿命を延ばし、豊かな人生を過ごすために、スポーツも含めた生涯学習に取り組んでいます。また、立科町の誇れる歴史文化の保全・継承に努め、地域資源を大いに活用しながら郷土を愛し、地域に根ざした人を育みます。

The future lies in the hands of our children. In order to prepare children for a fulfilling life through superior academic skills, we have been promoting the "Tateshina Education" concept, which centers on cooperation across the width from daycare center to elementary-, junior-, and senior high school. Moreover, to extend healthy life expectancy as much as possible and lead a fulfilled life, people in Tateshina engage in life-long study including sports. Furthermore, with a history and culture to be proud of, much work is being done for the preservation of both. Seeing the region's resources put to best use in this way has been filling the citizens of Tateshina with a sense of affection and attachment to their birthplace.



◎ たくましく羽ばたく立科っこ教育

少子化、国際化、高度情報化など子どもを取り巻く環境がめまぐるしく変化しています。そこで、家庭、学校、地域および行政などあらゆる関係者が協力し、グローバルな視点も取り入れながら、幼児期教育の充実、学力向上、豊かな人間性の育成と地域振興、特別支援教育の推進などを取り入れた「立科教育マルチプラットフォーム」を形成し、積極的に子育てを支援しています。

また、心身ともに健全な成長を願い、いじめ、不登校、虐待などの未然防止やフォロー体制を充実させ、すべての子どもが「生きる力」をつけ、次代を担う人材となるような教育活動を推進します。

◎ 子育て支援の充実

平成25年、町内の3保育園を統合し「たてしな保育園」を開園しました。核家族化や女性の社会進出が進むなか、多様な保育ニーズに応えられるよう、延長・早朝・休日保育、一時預かり事業など保育サービスの拡充を行っています。

また、児童館は、放課後児童クラブや放課後子ども教室で、放課後や長期休暇中の子どもたちの安心・安全な居場所の提供、働く家庭への支援を図るとともに、子育て支援センターや子育て支援事業の開催により地域の子育て支援の場所として大きな役割を担っています。



◎ スポーツで築く健康で豊かな人生と絆

明るく快適な生活を送り、交流を深めるためには、スポーツ・レクリエーションの普及は大切です。

住民の健康増進と体力向上のため、女神湖歩け歩け大会などの大会や各種スポーツ教室を開催し、住民相互の協調性、信頼性や絆を深めつつ、生活の一部としてスポーツや運動を楽しむことができるよう、施設や活動機会の充実に努めています。

◎ 心のふるさととは歴史のふるさと

長野県天然記念物の「笠取峠のマツ並木」や、「獅子舞」、「御泉水太鼓」など歴史的に重要な文化財や伝統行事の保護・保存と活用に努め、文化・芸術活動への町民の参加を促しつつ、人材の掘起こしと育成・支援を図ります。

平成26年にリニューアルオープンした、ふるさと交流館「芦田宿」は、今後歴史的な資料の保存および歴史文化の発信拠点として活用していきます。



立科町学校合同コンサート

◎ 男女共同参画社会の推進

男女がお互いを認め合い、ともに個性と能力を十分に発揮して平等に責任を果たせるまちづくりを推進しています。平成26年度に「立科町共同参画長期プランⅢ」を策定し、今後も、女性の社会進出を後押しし、男女が共に仕事と家庭を両立できるまちづくりを目指しています。



綱引き大会



御泉水太鼓



こども未来館

ふれあい読書



立科町児童館「こども未来館」

ふるさと交流館「芦田宿」

町のサポートで子育ての不安やストレスも解消できます

主婦

山越 未来さん

3人の子育て中ですが、とてもありがたいのが、町の児童館で様々なサポートをしてくれること。一人で家にいると、不安になったり、イライラすることもあります。保健師さんが悩みの相談にのってくれますし、同じ子育て世代のお母さんと知り合い、育児の不安や悩み、子どもの成長を共有し合えるので、とても心強いです。みんなで支え合いながら、子どもの笑顔あふれる町にしたいですね。



地域で共に支え合い子どもの豊かな感性を育む

男女共同参画推進委員長
ボランティア「ふれあい読書」会員

徳嶽 澄子さん

子どもたちに、素直な心と豊かな感性を育んでもらいたいと思い「ふれあい読書」に参加しています。みんなの笑顔を見るのが楽しみで、毎回どんな物語にしようか、本選びにも力が入ります。男の子も女の子も平等に本に接することで、多様な視点を養い「男女平等」の意識も身につけてくれたら嬉しいですね。家庭、学校、地域が寄り添い、支え合いながら子どもの成長を見守り、希望と活力あるまちにしていきたいです。



活気ある経済を創造するまちづくり

持続的な農業の発展、森林づくりを支える基盤整備、商工業者の経営支援、豊かな自然を生かした観光振興などの施策を展開してきました。各種産業を取り巻く環境の変化に対応した産業振興を推進するとともに、魅力あふれる地域資源を活用して、農業・商工業・観光業、行政の連携による立科ブランドの推進を図り、活気ある地域の創造を目指します。

Our town has been taking measures for the sustained advancement of agriculture, the creation of platforms for aiding afforestation, business support for commerce and industry, and the promotion of tourism centered on the region's rich nature. Along with policies for the promotion of industrial invigoration consistent with the changes in industries' environments, we have put the resources of this highly attractive region to good use in our efforts to promote the Tatehina brand through the cooperation of agriculture, commerce, industry, tourism, academia, and public administration, with the aim to create a region brimming with vitality.

● 町の魅力が活かした農業・農村づくり

米・りんご・牛肉・高原野菜など、自然風土に恵まれ育った質の高い特産物が数多くあります。地域を盛り上げる若手リーダーの発掘や次代を担う後継者の育成とともに、農畜産物の生産技術向上、品質向上の取り組みを推進し、安全・安心・安定した生産を支援します。また、6次産業化による加工品開発や農業・農村体験なども含めた観光産業との連携などによる地域ブランド化を進めます。



● 魅力ある観光の振興

夏は避暑地、冬はスキーリゾートとして多くの観光客が訪れる南部の観光エリア、中山道など歴史・文化的観光資源が点在する北部の農村エリアとの一体的な観光事業の展開を図ります。また、近隣市町村や県との連携による広域観光の推進、地理的特性を生かした個性と魅力ある観光エリアの形成など、特色ある観光地づくりを目指します。



蓼科牧場ゴンドラリフト



御泉水自然園



蓼科ふれあい牧場



蓼科山と白樺湖



しらかば2in1スキー場



白樺高原国際スキー場



陣内森林公園



蓼科農畜村(たてしなのんきむら)



ふれあい市 菜ないろ畑



株式会社 立科町農業振興公社
信州たてしな屋 農産物加工品

● 異業種連携による立科ブランドの推進

遊休荒廃地対策と農業所得の向上を目指す株式会社立科町農業振興公社、町のマスコットキャラクター「しいなちゃん」、相模原市観光協会が運営するアンテナショップなどの活用と農商観の異業種連携により、地域ぐるみで立科ブランドの推進を図ります。



● 森林の整備と有効活用

町の約58%を占める豊かな森林資源は、木材の生産だけでなく、水源のかん養・環境保全など多くの機能を発揮します。また、癒やしの場や林業体験・森林学習など文化的・教育的な活用の場にもなります。計画的な森林整備と適切な森林管理により健全な森林づくりを推進し、森林資源の積極的かつ有効な活用に努めます。



● 活力ある商工業の振興

地域に活気を呼び込み、地域を支える活力を生み出すよう消費者ニーズに的確に対応した魅力ある商品やサービス提供による商店街の活性化を目指します。また若者定住に向け、町内企業の雇用拡大、起業や新規立地企業への支援を進め、安定した就労機会の確保と地域活力の向上を図ります。



商工祭(多来福まつり)



若さとチャレンジ精神により農業で立科を活性化

りんご・米農家
関陽一さん

4年前にUターンして実家の農業を引き継ぎ、りんご・米農家として就農しました。蓼科山の湧き水、きれいな空気、気温、標高などにも恵まれて、りんごや米の栽培には抜群の環境です。地元の直売所やJA、保育園などの地産地消が主ですが、県外への出荷も増え、りんご狩り体験など、徐々に新しいことにもチャレンジしています。若い就農者が働きやすい環境を整えて農家を増やし、立科ブランドの全国発信など、若いパワーで立科の農業を盛り上げていきたいですね。

豊かな自然とともに暮らす 安全・安心なまちづくり



風の子広場

蓼科山の麓に広がる自然豊かな環境が、心の豊かさやゆとりを実感できる生活の源となっています。立科町の自慢の一つであるおいしい水も、この美しい自然があってこそ。私たちの生活を支える自然を守るため循環型社会を推進するとともに、交通網や公共交通、上下水道の整備、宅地造成、防犯対策など、環境や社会情勢の変化に応じた整備を行い、住みやすさを実感できる魅力あるまちづくりに取り組んでいます。

The resplendent natural environment expanding at the foot of Mount Tateshina has been a well-head for a life in poise and relaxation. Likewise, Tateshina has been proud of its water resources, which can be had only in this beautiful natural environment. Our lives are unthinkable without the support of nature. Thus, in order to protect our natural surroundings, we have been working to create an environment-orientated community. At the same time, consistent with the changes in our environments and wider social conditions, we have been taking measures surrounding traffic networks and public transportation, freshwater and wastewater facility maintenance, residential land development, and crime prevention, among others. Through these efforts, we have been working to create an attractive urban environment where residents can experience a true sense of living in ease.

交通網・公共交通の整備

生活道路の改良・補修・維持管理や除雪対策を行い、松本・佐久地域高規格道路の地域高規格道路整備計画への指定を目指します。また、長野県の事業である国道254号宇山バイパスの早期完成及び、主要地方道諏訪白樺湖小諸線・県道牛鹿望月線の改良整備に協力します。通学や高齢者の通院や買い物など、日常生活を支える地域のバス「たてしなスマイル交通」は、町民のニーズ、北陸新幹線の金沢延伸など交通事情や観光客の動向を考慮し、時刻・ルート・便数の見直しを行い、誰もが安心して利用できます。生活の利便性向上と地域活性化の促進につながる交通網・公共交通の整備に努めます。



水道水は100%湧水
美しい自然と水を守ります

蓼科の水を考える会会長

関 英一さん

立科町の水道水は100%湧水です。蛇口をひねればいつでも冷たくて美味しい水が飲める、この環境を守るために立ち上げたのが「蓼科の水を考える会」です。定期的な水質等の監視活動とともに、自然や水、生物などの関わりを通し、地域の皆さんに改めて水について考えていただけるよう、毎年夏休み子ども水辺教室、水源めぐりや井戸巡り、河川の草刈りなどを開催し、多くの方に参加いただいています。これからも地域ぐるみでふるさとの美しい自然と清らかな水を守り、後世に残していけるように活動を続けていきます。



夏休み子ども水辺教室



中原大深山線・平林真蒲線



立科の水源地めぐり学習会



たてしなスマイル交通

夏の交通安全やまびこ運動



子育て支援住宅 サンコーポ「芦田宿南」

生活を支える水と自然環境の保全

立科町の水道水は、すべて湧水でまかなわれており、住民意識調査でも多くの町民が満足と答えています。また、排水処理施設の普及率は97.7%で、快適な生活環境が維持されています。今後、老朽化対策や施設統合の検討など経営の健全化に努め、安定した水の供給と排水処理に努めます。

自然環境保全については、意識向上や環境美化活動の推進、啓発活動やパトロールによる不法投棄の根絶など、誇れる郷土の自然をそのまま後世に継承できるよう努めます。

さらに、一般廃棄物の減量化、リサイクルへの取り組み、佐久市・北佐久郡環境施設組合による新クリーンセンターの整備を進めるとともに、太陽光発電など新エネルギーの普及により循環型社会を促進し、地球環境保護にも取り組みます。

住環境の整備と定住・移住の促進

町営住宅、子育て支援住宅、土地開発公社による住宅団地など、快適な住宅環境のさらなる整備に力を入れ、計画的な修繕、人口増を目指した住環境の整備を行います。空き家バンク制度の活用や、情報発信など定住・移住希望者のニーズに沿った支援の充実に努めます。



細谷住宅団地

日常生活の安全と防災対策の充実

立科町交通安全協会等、関係団体との協力による交通安全意識の向上・普及運動を推進します。また、多様化・深刻化する消費トラブルに巻き込まれないよう、啓発活動や相談体制の充実により消費者の保護に努めています。

防災対策として、東日本大震災を受けて国及び県が見直した防災計画に基づき、平成24年度と26年度に「立科町地域防災計画」を改訂しました。立科町消防団の充実や自主防災組織などの育成、高齢者や障がい者など災害時要援護者の支援制度の整備、防災マップ・マニュアルの整備などを進めています。また、避難所の防災資機材・備蓄品の確保、情報伝達システムの整備・充実などを図るとともに、町民の防災意識向上により災害に強いまちづくりを目指します。



立科町消防団 出初式

地域の力で活力あふれるまちづくり

社会情勢の変化とともに、町政に対するニーズは高度かつ多様化しています。この問題解決のため、立科町では、住民・民間の活力を最大限に生かし、行政と地域住民の協働によるまちづくりを進めるとともに、事務の効率化など行財政改革を進め、健全な財政基盤の構築に努めています。

また、地方分権が進み、議会の果たす役割も大きくなっています。議会で十分な議論を積み重ね、多くの町民の意見を反映させながら、将来にわたって自立可能なまちづくりを目指します。

Along with the changes in society, the needs and wants of the town's citizens directed at the administration of Tateshina are becoming more complex and diverse. In order to accommodate this situation, Tateshina has been working to make the most of the capabilities of residents and the private sector to promote urban creation in a cooperation between the town's government and the regional citizenry, combined with efforts at pushing ahead with administrative and fiscal policy innovation, higher efficiency in clerical operations, and establishing sound fiscal policy foundations.

Meanwhile, decentralization of government to local jurisdictions has been making progress, leading to a growing role for the local assembly. The local assembly engages in thorough and multiple discussions of current issues, reflecting the views of many citizens, with the aim of creating urban structures whose independence is viable far into the future.



立科町役場

協働のまちづくりの促進

住みよいまちづくりのために、町民への情報提供・共有に努め、説明責任を果たし、行政と町民との信頼関係を築きます。また、まちづくりの目標や役割などをともに考える機会を設けることで協働意識の向上を図り、住民一人ひとりが町政に関心を持ち、様々な機会でもちづくりに参画しやすい環境の整備に努めます。

【立科町がんばる地域応援事業交付金で支援した活動】



立科町お話しバスケット



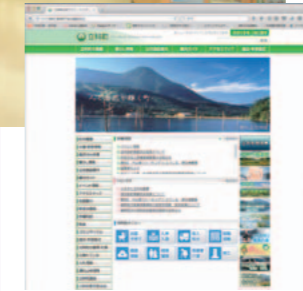
花いっぱい運動

地域コミュニティ活動の促進・支援

地域コミュニティは、その地域で安心して暮らすために重要です。しかし、近年、核家族化の進行やライフスタイル・価値観の多様化などにより、連帯感の希薄化が懸念されています。そこで、「地域担当職員制度」を導入し、町職員が各地区の担当となり、地域のつながりをより深めるための支援や問題の解決に取り組み、地域住民の自主的かつ主体的な地域コミュニティ活動を支援しています。



行政資料コーナー(役場内)



立科町ホームページ

行政の透明化

広報紙、出前講座、ホームページなど各種メディアを有効に活用して、町民をはじめ、立科町の情報を必要とする人が、必要な時に欲しい情報を容易に入手できるよう、常に最新の情報を発信しています。積極的に情報を公開し、町政への関心を高めるとともに行政の透明化を推進します。

計画的・効率的・効果的な行政運営

町を取り巻く社会情勢の変化により、より効率的かつ効果的な行政運営が求められています。多様化・複雑化する行政課題に積極的かつ柔軟に対応できるように、人材の育成と確保、行政改革を進め、町民の視点に立った質の高い行政サービスを提供していきます。

健全で持続可能な財政運営

町民とともに堅実で持続可能な自治体経営を進めていくため、健全な財政基盤の強化を図り、安定した自主財源の確保及び持続可能な財政運営に努めます。

立科町議会



地域の輪を広げ、みんなに愛されるまちづくり

読み聞かせグループ「立科町お話しバスケット」

相澤 芙美子さん

小・中学校や高齢者施設、公民館などで読み聞かせや創作紙芝居の上演活動を行っています。紙芝居は、すべて町に伝わる民話や歴史、偉人などを題材にしたもので、文化財の保護委員や歴史研究会、関係住民のみならず、子どもたちにも協力してもらいながら地域の皆さんと一緒に作り上げています。活動を通して交流の輪が広がり、町の歴史や偉人に対する知識や関心が深まった人も増えました。これからも町民に愛されるまちづくりに貢献できればと思っています。



町長 米村匡人

副町長 山浦智城

教育長 宮坂晃



議長 土屋春江

副議長 田中三江



オレゴン市中学生派遣事業

オレゴン市は、アメリカ西海岸のオレゴン州に位置する歴史ある都市で、日本との時差は-17時間。立科町で開催していた国際学級が縁で昭和49年に姉妹都市提携を結びました。以来、お互いの理解と発展、永久の友情を誓い合い、中学生のオレゴン市派遣をはじめ、スポーツ・文化など異文化交流事業を行っています。



[姉妹都市] アメリカ オレゴン市

The City of Oregon is a city with the history. Located in Oregon state on the West Coast of the US, the time difference with Japan is -17 hours. In 1974, Oregon city and Tateshina became sister-cities, occasioned by an international classroom hosted in Tateshina. Since that time, along with a shared commitment to mutual understanding, development, and lasting friendship, a lively international exchange in areas such as sports and culture including visit by a delegation of junior high school students to Oregon have took place.

立科町出身者との交流

蓼科すずらん会

平成3年に東京近郊在住の立科町出身者を中心に結成され、春の山菜採り、夏の横浜港クルージング、町民ゴルフ大会など会員同士が親睦を図りながら、立科町の応援団として物産展など各種イベントを通じてふるさとのPR活動や誘客など、様々な支援を行っています。



スポーツ交流

女神湖歩け歩け大会

毎年10月に開催する、標高700mから1,500mの高原をゆっくり歩いて楽しむ大会です。町内外から多くの参加者が集まり、健康増進、体力向上とともに女神湖の美しい紅葉を楽しみます。



町民大運動会

4年に1度開催される「町民大運動会」。綱引き、大玉送り、パン食い競争など子どもから大人まで参加し盛り上がりします。



青少年県外交流事業



[友好都市] 神奈川県 愛甲郡 愛川町

愛川町は、神奈川県中央北部に位置し、水と緑に囲まれた自然豊かな町です。昭和62年に友好都市提携を結んで以来、「愛川町一周駅伝競走大会」「愛川町ふるさとまつり」「えんでこ」への相互参加などスポーツ、文化、教育、産業など各分野で交流を深めています。

世代を超え、
地域を超え、
育む絆

ビーナスマラソン in 白樺高原

毎年6月に標高1,530mの女神湖畔で行っている、「日本一標高の高いハーフマラソン」。町内外から多くのランナーが集い、ともにさわやかな汗を流します。



きよせ ひまわり市

清瀬市 ● 東京都
相模原市 ●
愛川町 ● 神奈川県

[友好交流都市] 東京都 清瀬市

清瀬市は東京都多摩地域東北部に位置し、およそ半分が緑地という自然に恵まれたまちです。昭和45年、清瀬市が白樺高原に山荘を建てたのを機に交流が始まり、東日本大震災の発生後には災害時相互応援協定を締結。平成27年、友好関係をさらに促進するため、友好交流都市提携に関する協定を締結しました。

未来へ つなげよう 交流の輪!

経済・観光交流

神奈川県・相模原市、相模原商工会議所

平成19年、立科町と立科町商工会は、神奈川県相模原市及び相模原商工会議所と「経済・観光に係る交流協定」を締結しました。白樺高原に相模原市の保養施設がある縁で締結以前から続いていた民間交流を礎として、物産品販売や観光PRなど、地域経済の振興を推進します。

ほっとステイたてしな

地域の受入家庭とふれあいながら、農村の日常生活が体験できます。関東を中心に、これまで約1万7,000人の小・中・高校生が来訪し、台湾やシンガポールなど約2,000人の海外学生がホームステイで日本の農村を体験。農家との交流を通じて食の大切さと農業と日常生活のつながりを学んでいます。



わらじづくり

世代間交流

児童館で行っている放課後子ども教室は、地域の方を講師として、地域文化の伝承や知識の継承などの様々な教室を実施しています。違う世代の人と触れ合うことで、年齢の壁を超えた交流を深め、立科町の活性化につなげます。



児童館(こども未来館)

中山道ウォーキング in たてしな

「笠取峠のマツ並木」から、「芦田宿」を經由し、「茂田井間の宿」まで、往時の賑わいに思いを馳せ、趣のある街並みを楽しみながら中山道約6kmをのんびり歩きます。途中、地域の方々とふれあい、おもてなしを受けながら交流を深め、中山道の魅力を感じます。



都市・農村交流

交流促進センター「耕福館」は、農村空間や伝統文化を生かした体験ができる施設。農作業・調理・工作体験など、各種体験を通じて都市部と農村の住民がふれあえる交流の場を提供しています。



そば打ち体験



交流促進センター「耕福館」



竹とんぼづくり



クローズアップ たてしな

みなさんは
知っていますか?



奇人と呼ばれた教育者

保科五無齋 (1868~1911)

明治元年(1868)、立科町山部の農家の三男として生まれた保科五無齋(本名 保科百助)。

明治24年(1891)に長野県師範学校を卒業すると、真の教育を追い求めて熱意を教職に捧げました。実物教育を訴え、休日には鉱物岩石の採集に努めました。その採集姿は見る人を驚かせるものでしたが、1年半にも及ぶ放浪で5トンもの石を採集して地学標本を製作、「緑廉石」「玄能石」を発見するなど地質学の研究者として全国に名を成しました。

蓼科高校に初代校長として赴任すると明治教育の先駆けとなる同和教育を率先して行い、教職引退後は保科塾を開き、教育を多くの人へ広げるとともに、全国各地で講演したり、新聞で面白おかしく地学の知識を発信するなど、多彩な才能を発揮。



現在の長野県立図書館設立に奔走するなど数々の偉業を成し遂げました。自分の理想とする教育にひたすら突き進む姿が、人々から奇人とも言われた五無齋。明治44年(1911年)死去。著書には「信州産岩石鉱物説明書」などがあります。

保科百助が“五無齋”と号するようになったのは、明治29年の鉱石採集旅行中に草履が破れ、新しい草履を買おうとしたものの、お金が1厘(現在の5円くらい)足りず、負けてくれるように頼んだものの、聞き入れてもらえず詠んだ狂歌からとされています。

おあしなし 草履なしには あるけなし
おまけなしとは おなさけもなし



参考資料:
紀伊國屋書店ビデオ評伝シリーズ(1999)
『学問と情熱 第13巻 保科五無齋』紀伊國屋書店、
平沢信康(2001)『五無齋と信州教育』学文社

作詞・作曲は松任谷由実さん たてしな保育園のうた

写真が
動く!

平成25年4月に開園した「たてしな保育園」。以前、立科中学校の生徒と交流のあった縁から、シンガーソングライターの松任谷由実さんに園歌を作詞・作曲していただきました。

「あの美しい立科の風景の中で生まれ育つということの素晴らしさを歌にできれば」との思いが込められています。



たてしな保育園の うたを聴こう!

たてしな保育園の歌
ソフトクリームはのくもを
のせたまようなみどりのやま
りんごばたけのむらさきへ
てをつないでゆきりり
たてしなっ、たてしなっ
すっとなかよく
ブルベリーのいろのあめに
おひめもきも、うたっ、い
きみとみつける、メロデー
こえあわせ、うたおう
もしもきみがとおっぱい
おまじないときかきま
めをとじれば、かわらないよ
いまかんじてる、せかい
たてしなっ、たてしなっ
すっとなかよく
たてしなっ、たてしなっ
いつもげんきに

写真が動く「AR」!

写真にスマホをかざすと
動画が見られます。



動画を見る前の準備

- 1 スマートフォンにQRコードの読み取りアプリが入っていない人はインストールしたうえで、上のQRコードを読み込み、URLを選ぶと「do you have Aurasma installed?」(オーラズマをインストールしてありますか?)と出ます。「No」の後の青い文字(install for free now)を選択します。
- 2 アプリ検索が始まり、紫色の「Aurasma」のアイコンが出ますのでインストールしてください。(無料)
- 3 「開く」を選択して「Aurasma」を立ち上げます。(iPhone端末は、位置情報利用の許可を求める画面が出るので「OK」を選択します。)[Welcome to Aurasma](オーラズマによるこそ)と表示されますので、画面を右に進めてください。6番目の「ログイン」「登録」と表示された画面が出たら、右下の「Skip」を選びます。カメラの画面になったことを確認した後、端末のホームボタンを押して初期画面に戻ってください。
- 4 再びQRコードの読み取りアプリを立ち上げ、上のQRコードを読み取り、「Aurasma」を立ち上げます。(Android端末の場合は「Aurasma」のインストールを尋ねる画面が出て、今度は「Yes」の後の青い文字(retrieve your shared content now)の選択が必要な場合があります。)※以上で準備が完了です。
2回目以降、①から④の手順は必要ありません。

動画を見よう

- 5 「Aurasma」アプリを立ち上げて、「写真が動く!」のマークがある写真が、動く白丸の中心になるようかざします。
 - 6 画面に写真が表示され、ピンツを合わせたまま少し待つと、二重丸のような表示が出て、読み込まれます。
 - 7 動画が始まったら、画面を2回たたくと、端末の画面全体で再生されます。
- ※スマートフォン以外の携帯電話では動画は見られません。機種によっては再生しないスマホもあります。

立科町勢要覧

資料編

2015

Contents

立科町60年のあゆみ	38
立科町の概要・気象	56
人口	57
保健	58
福祉	59
教育・文化	60
建設	61
生活環境	62
産業	63
財政	66
施設一覧	67
アクセス	68

立科町60年のあゆみ

1955【昭和30年】

- 4月 1日 芦田村、横鳥村、三都和村の三村を合併し立科村発足
国民健康保険事業、5割の給付割合を以って開始
立科村遺族会結成
- 4月15日 村長、議会議員、教育委員選挙執行
初代村長、土屋傳氏、無投票当選
村会議員定数22名(旧村ごとに選挙区を設けて執行)
教育委員会、定数4名、無投票選挙
- 4月18日 農業委員会委員選挙執行、定数15名
(旧村ごとに選挙区を設けて行い無投票選挙)
- 4月20日 初議会招集、議長に遠山忠雄氏、副議長に小林孝太郎氏選出
- 4月23日 県知事、県議会議員、県教育委員選挙執行
- 4月25日 初農業委員会招集、会長に中沢善豊氏選出
- 5月 1日 初教育委員会招集、委員長に池田長田氏選出
- 5月 9日 助役に宮下精一郎氏、収入役に今井克己氏選任
- 5月21日 合併祝賀会举行
立科村消防団結団式举行、旧村単位に分団を置く
- 5月26日 芦田財産区議会議員選挙執行、定数16名、無投票選挙
- 7月 5日 白樺湖一樽ヶ沢間に諏訪バス運行開始
- 7月23日 池ノ平分村対策委員会設置
- 8月 2日 立科統合中学校敷地調査委員会設置
- 8月16日 北部蓼科観光協会設立
- 8月20日 立科村納税組合設立
- 9月13日 蓼北地帯立科水系総合開発期成同盟会発足
- 10月 1日 国勢調査実施、人口8,887人
- 10月18日 第1回村民運動会開催
- 12月12日 わみ山分割研究委員会開催

1956【昭和31年】

- 4月 1日 課設置条例の制定により、
総務課、財務課、社会課、産業課の4課設置
- 4月12日 立科村酪農組合結成
- 5月 7日 立科村農業共済組合発足
- 5月14日 西部地区青年団、児童補導優良団体として総理大臣表彰受賞
- 5月24日 蓼科牧場にバンガロー建設
- 6月 1日 蓼科牧場開設25周年記念式を牧場開場にあわせ举行
- 7月 1日 池ノ平地区境界変更、立科村より1.02km²茅野市へ分村
- 7月14日 芦田郵便局開設80周年記念式典举行
- 7月15日 立科統合中学校敷地、中原地籍に決定、土地買取契約成立
6,350坪、買取額7,500千円

- 11月30日 茂田井合併促進委員会設置

1957【昭和32年】

- 3月 2日 立科一小諸間に国鉄バス開通、合同祝賀会举行
- 4月 1日 西部、東部の役場出張所廃止
- 4月16日 結核健康診断及び結核予防策優良村として
結核予防協会より表彰を受ける
- 6月 4日 望月一白樺湖間に千曲バス開通
- 7月16日 農業委員会法の改正により委員総辞職し、
全村一選挙区で選挙執行、定数18名、無投票選挙
- 10月13日 立科統合中学校第1期工事着工
請負業者北野建設(株)、普通教室479坪、工費15,057千円
- 10月21日 第2回村民運動会開催
- 11月14日 赤沼池ポーリング調査開始
- 12月 5日 立科村部落解放審議会設置

1958【昭和33年】

- 1月 8日 水道委員会設置
- 4月 1日 新村建設審議会設置
部落解放専門主事が設置され高瀬朋義氏に委託
- 5月 1日 立科南、西、東中学校を統合し、立科中学校とする
立科村海外移住促進協議会発足
- 5月 3日 立科南小学校に集団赤痢発生
- 5月22日 衆議院議員選挙執行
- 6月 1日 若山牧水歌碑、蓼科牧場に建立、除幕式举行
- 7月 5日 立科中学校第2期工事に着工、
特別管理校舎552坪、工費18,857千円
- 8月 2日 第4回県平和友好祭、蓼科牧場において開催
- 9月17日 台風21号襲来
182mmの降雨により、未曾有の大災害をもたらす
- 9月26日 台風22号襲来
- 10月 1日 町制施行され、立科町となる
- 11月29日 蓼科高等学校創立60周年記念式典举行
立科町外一町上水道組合設立認可
- 12月18日 立科町外一町上水道事業経営認可

1959【昭和34年】

- 2月28日 立科町外一町上水道事業、
広域簡易水道として国庫補助対策事業に決定
- 3月10日 立科町外一町上水道第1期工事着工、工費18,000千円
請負者岡谷水道(株)
- 3月12日 立科中学校開校式举行
- 3月25日 町制施行及び中学校落成並びに町地区国道舗装完成
祝賀会举行
- 4月 1日 立科町保育所(のちの千草保育園)竣工、入園式举行
84坪、工費1,880千円、定数60名
- 4月14日 部落解放専門主事を同和教育主事に改め教育委員会に配属
- 4月23日 県知事、県議会議員選挙執行
- 4月30日 町長、町議会議員選挙執行され、町長に土屋傳氏当選
- 5月 8日 選挙後初の議会招集、
議長に小宮山蔵司氏、副議長に橋本幸雄氏選出
- 6月 2日 参議院議員選挙執行
- 8月14日 台風7号襲来し、統合中学校、千草保育所の屋根をはじめ
一般家屋、財産組合林に多大の被害を受ける
- 9月11日 降ヒョウにより水稻脱粒に被害を受ける
- 9月26日 台風15号襲来し台風7号に続き大きな被害を受ける
- 11月 5日 立科町自治省表彰受賞
- 11月26日 消防自動車1台を購入し、町分団に配属

1960【昭和35年】

- 3月19日 川西土地改良区連合会が設立され、立科町に事務所設置
- 4月 4日 立科町千草保育所、定員70名となる
- 4月 6日 望月町茂田井で立科町への境界変更について住民投票執行
- 4月10日 芦田郵便局舎新築移転
- 4月11日 望月町茂田井の児童生徒、立科小中学校へ転入
(小学生161人南小へ、中学生72人中学校へ)
- 4月15日 住民投票の結果、望月町茂田井の大部分が、
立科町に境界変更、面積3.34km²
- 4月23日 茂田井地区編入に伴う町議会議員増員選挙執行、
定数3名、無投票選挙
- 4月25日 茂田井地区で初めて移動役場設置
- 5月16日 立科町軍人恩給連盟、身体障害者協会、傷痍軍人会、
母子会がそれぞれ結成
- 7月15日 立科町農業委員会委員選挙執行、定数18名
- 7月20日 農業委員会初会議、会長に今井鶴二氏選出
- 8月 1日 全町水道通水式举行

- 8月 2日 第1回公民館分館対抗野球大会実施
- 8月19日 立科町商工会設立
- 8月22日 蓼科高等学校全面改築期成同盟会結成
- 8月29日 立科町消防団茂田井分団結団式举行
- 10月 1日 国勢調査実施、人口9,756人、拠出制国民年金の受付開始
- 10月14日 役場庁舎建設委員会設置
- 10月25日 合併5周年、茂田井合併祝賀会記念式
第3回町民運動会開催
- 10月31日 若草保育園竣工、91坪、工費1,318千円
- 11月20日 衆議院議員選挙執行

1961【昭和36年】

- 3月31日 上水道事業工事竣工
- 4月 1日 上水道給水開始
立科町消防団蓼科分団結団
- 4月 8日 上水道事業竣工祝賀式举行
- 4月16日 立科町老人クラブ結成
- 4月18日 農業構造改善事業計画策定地域に指定
- 7月10日 白樺湖畔別荘地造成開始
- 8月18日 第2室戸台風襲来
- 9月14日 役場庁舎建築地鎮祭行われる
- 9月18日 蓼科高等学校全面改築工事起工式举行
- 10月 1日 心配ごと相談所開設
- 10月 1日 工場誘致による月産業(株)業務を開始
- 10月15日 第4回町民運動会開催
- 10月16日 町議会に総合開発委員会設置
- 11月 7日 県営農業水利改良事業起工式举行
- 11月15日 中学校校歌制定、発表会開催
- 12月10日 県観光開発公社による北蓼科白樺高原開発起工式举行
- 12月23日 役場庁舎建設工事竣工
- 12月29日 役場事務新庁舎に移転

1962【昭和37年】

- 1月 4日 事務改善を実施し新組織により役場事務開始
課制を三課(総務課、町民課、振興課)とし、
会計室、教育委員会事務局を別に置く
- 3月20日 農協合併促進委員会設置
- 3月28日 茂田井保育所竣工、94坪、工費3,200千円
- 3月28日 三葉保育所、旧東部出張所を改築竣工、60坪、工費500千円

立科町60年のあゆみ

4月 1日	三葉保育所開所、定員70名 茂田井保育所開所、定員70名 立科町農業共済組合を解散し農業共済事業、町に移譲
4月 8日	役場庁舎落成祝賀会举行
7月 1日	参議院議員選挙執行
7月10日	県営事業赤沼溜池(現女神湖)立科第1号幹線工事着手
8月 1日	蓼科牧場に電気、水道設備事業完成
8月 3日	農業構造改善推進協議会発足 蓼科牧場周辺の別荘地造成開始
8月10日	南小学校プール竣工、工費3,860千円
8月13日	ヘリコプターによるいもち病空中防除初めて実施
10月 1日	土地改良区合併し立科町土地改良区第1回総会開催
10月11日	林道樽ヶ沢線開通 蓼科地区上水道施設、電気導入事業完成
10月12日	消防自動車1台購入、茂田井分団に配置
10月21日	第5回町民運動会開催
11月23日	東小学校創立70周年記念式典举行 記念事業として資料館設置
12月 8日	西小学校創立70周年記念式典举行 記念事業として資料館設置
12月10日	南小学校創立70周年記念式典举行 記念事業として視聴覚備品を整備 立科町母親クラブ連合結成
12月18日	昭和37年度農業構造改善事業実施地域に指定され 3ヵ年計画130,000千円の事業費で実施することに決定

1963【昭和38年】

4月 1日	南小学校に特別指導学級開設、学校プール建設のため、 3ヵ年計画で年間約300万円の増税を決定
4月23日	県知事、県議会議員選挙執行
4月25日	姥・中尾簡易水道給水開始
4月30日	町長、町議会議員選挙執行 初めて町長選挙に記号式投票採用と立会演説会の実施 町長に宮下精一郎氏当選
5月 8日	選挙後初の議会招集 議長に寺島父養氏、副議長に伊藤好一氏選出
5月20日	助役に今井克巳氏、収入役に瀬下洋氏選任
7月 5日	東小学校にプール完成、工費3,500千円
7月15日	農業委員会選挙執行、定数18名
7月17日	中学校プール完成、工費4,297千円
7月20日	西小学校にプール完成、工費3,500千円

9月 2日	立科農協発足し、組合長に小宮山蔵司氏就任
9月21日	公民館建設促進委員会結成
10月13日	第6回町民運動会開催
10月27日	奥地林道夢の平線、国鉄バス開通
11月 8日	奥地林道夢の平線、竣工祝賀式举行
11月16日	農協合併祝賀式举行
11月21日	衆議院議員選挙執行
12月12日	同和地区集会所完成、45坪、工費1,688千円
12月16日	同和地区集会所竣工式举行
12月20日	沖縄に建立する「信濃の塔」の添石、夢の平地籍から搬出

1964【昭和39年】

1月31日	農業共済組合解散
2月 8日	蓼北衛生施設組合設立
4月 1日	北部蓼科観光協会を北蓼科白樺高原観光協会に改称
5月 1日	夢の平に国鉄キャンプ村設置
5月 2日	工場誘致による立科金属(株)業務を開始
5月13日	全国植林祭、八子ヶ峰において 天皇、皇后両陛下の来臨の中に開催
5月15日	88歳以上高齢者、上田山本記念館で天皇陛下に拝謁
5月21日	赤沼溜池築造定礎式举行
6月 1日	八ヶ岳中信高原国定公園に指定され、 横堰より南側の地籍が指定地となる
7月18日	蓼科高等学校で同和教育研究会開催
7月20日	西小学校、校庭拡張工事着工、工費897千円
10月16日	蓼科高等学校、全面改築落成祝賀式举行
10月16日	「白樺高原音頭」、「ああ女神湖で逢った人」発表会開催
10月28日	戸籍改製事務優良町として法務大臣表彰受賞
11月 9日	南小学校で同和教育研究集会開催

1965【昭和40年】

3月31日	3ヵ年計画による第1次農業構造改善事業完了
4月 1日	教育委員会に文化財保護委員会設置
4月 7日	有線放送事業起工
4月22日	南部、東部地区に集団赤痢発生
6月 1日	夢の平線及び白樺湖－蓼科温泉間に 国鉄バス、千曲バス、諏訪バス運行開始
7月 1日	観光課新設
7月 4日	参議院議員選挙執行

7月16日	宇山堰記念碑除幕式举行
7月24日	観光課事業所落成
8月 1日	有線放送開始
8月10日	北佐久老人福祉施設組合設立
8月18日	農村青年建設班開班式举行、班員25名
8月21日	蓼北衛生施設組合施設完成、投入式举行
8月27日	公民館敷地選定委員会設置
9月17日	台風24号襲来
10月 1日	国勢調査実施、人口8,876人
10月19日	北佐久老人福祉施設組合による老人ホーム、 望月町に建設が決定し工事に着工
11月11日	有線放送、公社電話に接続され 一中継局までの管外通話可能に
12月14日	蓼北衛生施設組合施設竣工

1966【昭和41年】

3月	県営水利事業立科第1号幹線、樽ヶ沢から葉研まで完成 3,705m
3月23日	新農村事業で建設した南部稚蚕共同飼育所が火災により半焼
4月 1日	立科町外一町上水道組合解散、水道課新設、 望月町水道事業は事務委託により立科町で処理
4月14日	蓼科牧場に建設する夏冬兼用リフト起工式举行
4月25日	わみ山分割調印解散式举行
4月30日	わみ山財産組合解散
5月17日	老人ホーム落成開所式举行
7月 1日	夏期学生村開設
7月15日	農業委員会委員選挙執行、定数12名、無投票選挙
9月10日	蓼科牧場リフト、女神湖センター、雨境監視所落成祝賀式举行
10月20日	川西傾斜地区農業機械化ステーション落成及び 機械入魂祝賀式举行
11月19日	合併10周年並びに財産組合65周年記念行事、記念式典 举行、自治功労者表彰、財産組合の功労者顕彰及び表彰、 記念誌の発行(全戸配布)

1967【昭和42年】

1月29日	衆議院議員選挙執行
4月 1日	南小学校に市村敬一校長着任、 西小学校に青柳有三校長着任
4月15日	県知事、県議会議員選挙執行

4月30日	町長、町議会議員選挙執行 町長に宮下精一郎氏、無投票で再選
5月 6日	芦田千草線消火栓新設工事完成
5月 8日	選挙後初議会招集 議長に森沢逸三氏、副議長に今井清次郎氏再選
5月20日	助役に今井克己氏、収入役に瀬下洋氏再任
6月 1日	女神湖ボート操業開始
6月30日	女神湖畔水道幹線布設工事完了
7月 1日	蓼科牧場第3次別荘造成開始
7月25日	牧場－白樺湖間樽ヶ沢有料道路開通(県企業局施工)
8月 1日	南部地区上水道量水器取替実施
9月10日	埼玉県国体リレー中山道通過
9月20日	県の成人病調査モデル地区に山部部落が指定され、 5ヵ年の継続事業として実施
9月30日	国道142号線(中山道)全面舗装完成
10月 1日	住民基本台帳法施行、住民基本台帳作成
10月 1日	林道蓼科線開通
10月15日	第7回町民運動会開催
12月12日	東小学校校歌制定

1968【昭和43年】

1月23日	移動福祉事業所開設、 初の試みとして厚生全般の相談を受ける
4月 1日	老人医療費10割給付実施。地方公営企業法適用(水道)
4月 1日	中学校長に杉浦藤金氏着任
5月 1日	南平別荘造成開始、貸付開始
6月22日	全町的降ヒョウ被害178,000千円
6月30日	牧場周辺水道配管整備
7月 7日	衆議院議員選挙執行
7月21日	霧ヶ峰有料道路ビーナスライン開通(8月1日開通式)
7月24日	白樺高原防犯組合設立
8月12日	台風10号により公共土木・農地・農業用施設で 約60,000千円の被害を受ける
10月 8日	美上下水道第1期送水管布設工事完成
11月 1日	第1次農業構造改善土地基盤整備事業野方地区 圃場整備工事起工
12月10日	中学校技術科室増築完成、創立10周年記念式典举行

立科町60年のあゆみ

1969【昭和44年】

- 3月20日 西小学校に保科五無齋資料館完成
- 4月 1日 南小学校、中学校が同和教育指定校となる
- 4月15日 議会構成変わる、議長に今井久芳氏、副議長に笹井優氏選出
助役 今井克己氏辞任に伴い新たに助役に瀬下洋氏
収入役に高橋敏行氏選任
- 6月27日 公害対策委員会が設置され問題化してきた公害について
審議を行う
- 7月 1日 小諸―白樺湖線で国鉄バス、千曲バスの相互乗り入れ開始
- 7月10日 同和対策事業特別措置法公布
目標達成のため長期計画を策定
- 7月15日 農業委員会委員選挙執行
- 7月28日 農業委員会初会議、会長に片桐博氏再任
- 9月 1日 女神湖のシンボル女神像建立
- 9月 2日 蓼科総合案内所建設
- 10月 1日 山部小樋沢川砂防指定地になる
- 10月 8日 立科町社会福祉協議会が法人認可
- 10月10日 広域市町村圏に指定
- 11月 1日 上田地区地方生活圏振興整備計画の指定を受ける
- 11月 3日 福祉センター竣工祝賀式举行
- 11月10日 蓼科御泉水自然園完成、西沢知事来町され開園式举行
- 11月11日 団体営土地改良事業開始
- 11月30日 竜ヶ峰配水地(150㎡)築造
- 12月 4日 国道254号線に指定される
- 12月27日 衆議院議員選挙執行

1970【昭和45年】

- 1月20日 成人病予防のため成人病検診を町独自で実施する
40歳以上を対象とし毎年継続して行うことを決定
- 4月 1日 東小学校に清水豊校長着任、南小学校に新津勘吾校長着任
- 4月 1日 家庭奉仕員派遣事業開始
- 5月 1日 蓼科牧場事務所移転
- 5月11日 白樺湖浄化対策協議会設立
- 6月 1日 小学校、中学校児童生徒用机、椅子総入替
小学校にデスクオルガン、生徒数にあわせ購入
- 6月10日 蓼科総合案内所竣工
- 7月 1日 女神湖畔防犯灯設置
- 8月30日 牧野改良事業完了
- 8月31日 蓼科財産組合解散、林務課設置
町有林野の森林関係を蓼科森林組合に全面委託

- 9月 1日 茂田井地区分収分割百分の3.8相当135町歩を分割する
調印成立
- 9月30日 県道芦田―大屋線全面舗装完成
- 10月 1日 白樺高原を守る会設立、牧場前駐車場の建設
- 10月 1日 国勢調査実施、人口8,301人
- 10月10日 美上下水道第2期送水管布設工事完成
- 10月20日 第2女神湖(ハヶ野溜池)調査開始
- 10月25日 第8回町民運動会開催、西小学校に岩石園築造
- 11月 1日 佐久地域広域行政事務組合発足
- 11月30日 同和対策事業として南部飼育所線舗装
- 12月 1日 収入役に塩沢方氏就任
- 12月11日 中学校音楽教室竣工
- 12月22日 川西騒動の義民の碑除幕式举行

1971【昭和46年】

- 3月 1日 寝たきり老人対策として特殊ベッド10台購入し、
寝たきり老人へ貸与
- 3月31日 蓼科森林組合と芦田森林組合が合併し、
立科町森林組合発足
- 4月 1日 立科町商工業振興審議会発足
- 4月 8日 桐原に農業生活共同館建設
- 4月10日 国道142号線バイパス調査測量開始
- 4月11日 県知事、県議会議員選挙執行
- 4月25日 町長、町議会議員選挙執行、町長に片桐博氏当選
- 5月 6日 選挙後初議会招集
議長に小林満正氏、副議長に笹井優氏選出
- 5月 8日 ボーイスカウト結団式
- 6月 8日 助役に奥屋義広氏、収入役に宮下秋男氏選任
- 6月14日 同和対策事業推進委員会設置
- 6月30日 女神湖橋道路舗装完了
- 8月 1日 温井配水池拡張工事着工、工費12,760千円、有効容量550㎡
- 8月12日 小学校全教室にテレビ配置
中学校給食室、視聴覚室、放送施設改修、VTR導入
- 8月20日 振興山村農林漁業特別開発事業、姥地区圃場整備工事起工
- 9月 1日 林道西峰線、長門町と開発委員会を設立し着工
- 9月 4日 小諸、北御牧、立科3市町村による県道立科小諸線改良
舗装促進期成同盟会発足
- 9月13日 勤労青少年夜間照明施設完成記念式典举行
(南小学校グラウンド)
- 9月27日 立科町中小企業振興資金制度創設
- 10月 1日 川西消防署開署式举行

- 11月 5日 中学校石垣改修工事、ロータリー池完成
- 11月10日 林道夢の平線付替工事完了
- 11月30日 石川地区に隣保館完成、工費7,556千円

1972【昭和47年】

- 3月 9日 農業振興地域整備計画策定
- 3月26日 1日町民室開かれる
- 4月 1日 国土調査(地籍調査)事業開始
- 7月10日 国道142号バイパス茂田井地区用地買収開始
- 7月14日 農業委員会委員選挙執行、定数12名、無投票選挙
- 7月18日 芦田川水系ダム調査開始
- 7月24日 農業委員会初会議、会長に両角英夫氏選任
- 8月 3日 国民宿舎蓼泉閣建設工事起工
- 8月16日 須沢用水雨境まで引水
- 10月20日 公民館発明展開催
- 10月21日 ユースホステル起工
- 10月25日 中尾、姥、簡水拡張工事、美上下統合工事、工費4,450千円
- 11月13日 3小学校耐力度調査の結果老朽化目立つ
- 12月 1日 中学校に岩石園完成、小中学校で石炭ストーブを
石油ストーブに低学年より切替え開始
- 12月10日 衆議院議員選挙執行
- 12月16日 林道西峰線第2期分、林道万仁田線第1期分竣工

1973【昭和48年】

- 2月 6日 小学校統合懇談会町内役職者約200名により開催
- 2月19日 30部落に対し小学校統合部落懇談会開始
- 3月 9日 美上下林道竣工
- 4月 1日 立科中学校、県の道徳教育研究指定校となる
- 4月 1日 果樹共済事業発足
- 4月10日 議会構成変わり議長に小林満正氏再選、
副議長に角田徳市氏選出
- 4月25日 議会3小学校を統合し、立科小学校建設を議決
- 5月 4日 小袋畜産団地事業起工
- 5月25日 大字塩沢地域を県圃調査地区に採択申請
- 6月15日 広報たてしな第1号発行(当時は毎月発行1部10円としていた)
- 6月15日 国民宿舎蓼泉閣竣工
- 6月18日 八子ヶ峰(鹿山)境界確認
- 6月25日 林道万仁田線第2期工事着手
- 6月30日 立科町土地開発公社設立

- 7月 1日 麦作付面積減少により共済事業から除外
- 7月 6日 林道横堰線舗装完成
- 7月11日 有料道路料金徴収所落成
- 7月25日 芦田川水系ダム期成同盟会結成
- 8月 1日 小・中学校無人化
- 8月17日 統合小学校の用地買収交渉開始
- 8月19日 第1回佐久ブロック競技大会、小諸市で開催、70名参加
- 8月20日 ユースホステル竣工
- 9月26日 望月町協和地区との境界確認
- 10月18日 八子ヶ峰(鹿山)境界確認
- 11月15日 49年度より佐久一円一学区となり
上小方面の普通科高校へ進学できなくなる
- 11月20日 町内芸能文化祭開催
- 11月30日 麦草治山工事竣工
- 12月 4日 町道細丸前沢線、山村振興事業として16,200千円で完成
- 12月14日 林道万仁田線第2期工事竣工
- 12月22日 西峰林道第3期工事竣工

1974【昭和49年】

- 4月 1日 町費で西小学校、東小学校に兼務の専科教師を増員
- 4月10日 中学校体育館天井張替工事完了
- 4月22日 有料道路料金徴収業務委託
- 6月 アメリカシロヒトリ集団発生
- 6月 4日 深久保水源ボーリング完成
- 6月13日 夢の平線、展望台―御泉水間舗装完成
- 6月16日 女神湖野球場、民俗資料館竣工
- 7月 2日 土地を守る町民運動推進委員会発足
- 7月 7日 参議院議員選挙執行
- 8月20日 夢の平配水池完成、工費44,000千円
- 9月 2日 統合小学校校舎一括入札、工費504,900千円
- 9月 2日 オレゴン市(アメリカ)と姉妹都市提携調印
- 9月25日 南平林道開設960m
- 10月 3日 統合小学校着工
- 10月 4日 麦草治山工事竣工
- 10月17日 統合小学校起工式举行
- 11月22日 林道長峰線(丸子町)開設
- 11月27日 上水道第3次拡張工事完成、工費113,380千円
- 12月12日 牧場―箕輪平間自転車道完成

立科町60年のあゆみ

1975【昭和50年】

2月25日	小袋畜産団地事業竣工
3月20日	鳴石牧区環境整備竣工
4月13日	県知事、県議会議員選挙執行
4月27日	町長、町議会議員選挙執行、町長に上原正三氏当選
5月 8日	選挙後初議会招集 <p>議長に橋詰隆文氏、副議長に宮下隆幸氏選出</p>
5月20日	白樺高原下水道事業起工
5月30日	統合小学校低学年棟完成
6月 1日	助役に高橋雅夫氏、収入役に小林敦男氏選任
6月28日	塩沢地区県営圃場整備事業として採択される
7月15日	農業委員会選挙執行、定数12名、無投票選挙
7月29日	農業委員会初会議、会長に今井今朝禧氏選出
8月10日	中学校給食雑排水処理施設完成、牛乳保冷庫入る
10月 1日	国勢調査実施、人口8,425人
10月25日	女神湖下水道事業竣工
10月28日	塩沢地区県営圃場整備事業起工
11月16日	合併20周年記念式典举行 <p>自治功労者表彰、記念誌発行(全戸配布)</p>

1976【昭和51年】

5月25日	立科土地改良区全国土地改良事業団体連合会金賞受賞
6月 8日	国民宿舎ケビン起工
6月20日	女神湖テニスコート竣工
7月 8日	統合小学校体育館、食堂棟建設工事入札、工費171,550千円
7月 8日	国民宿舎ケビン竣工
7月25日	東京電力送電線に伴う町有地貸与調印式
8月 6日	統合小学校体育館、食堂棟起工
10月10日	同和対策農業基盤整備事業として、 <p>石川地区が圃場整備国庫補助事業に採択、面積30ha</p>
10月21日	立科土地改良区設立15周年記念式典举行 <p>沿革誌(蓼科の水)発刊</p>
11月 2日	しらかばスキー場起工
12月24日	しらかばスキー場竣工

1977【昭和52年】

3月19日	3小学校閉校式、明治以来約100年の歴史を閉じる
3月31日	団体営水路改修事業全幹線完工

4月 1日	家庭雑排水浄化槽導入事業開始 <p>果実共済にぶどう引受が加わる</p> <p>家畜共済に肉豚引受が加わる</p>
4月 2日	立科小学校開校、入学式举行 <p>丸山寛夫氏が初代校長となる</p>
4月16日	茂田井地区県営圃場整備事業として採択、面積191ha
5月14日	立科小学校竣工祝賀式举行
7月 5日	商工会事務所移転
7月10日	参議院議員通常選挙執行
7月20日	小学校プール竣工
7月21日	消防可搬積載水槽車、蓼科分団へ配置
8月10日	美上下ため池起工
10月27日	茂田井地区県営圃場整備事業起工
11月 2日	同和対策農業基盤整備事業として <p>石川地区 圃場整備起工</p>
11月 4日	蓼科分団消防庫竣工
11月 7日	姉妹都市オレゴン市民30名来町
11月23日	竹熊線起工
12月17日	美上下ため池竣工、貯水量40,000m ³

1978【昭和53年】

3月20日	林道南平線開通、 <p>総工費59,283千円、延長3,181m、幅員4.0m</p>
4月 4日	番屋地区県営圃場整備事業に採択、面積510ha
4月25日	公民館婦人部設立、第1回大会を福祉センターで開催
6月 8日	竹熊線竣工、延長1,600m、幅員6.0m
7月 7日	三葉保育園起工、中学校第2体育館起工
7月14日	農業委員会委員選挙執行、定数12名、無投票当選
7月25日	農業委員会初会議、会長に市川喜樹氏選出
8月15日	成人式、蓼科牧場にて举行
9月30日	同和対策事業量調査実施
10月 9日	国体長野大会の炬火リレーが立科町を通過
10月20日	同和対策事業特別措置法3ヵ年延長決定
10月31日	三葉保育園竣工、地域森林計画を再編成
11月10日	間伐林道押出線開設 <p>総延長1,600m、幅員2.8m、総工費22,798千円</p>
11月14日	番屋地区県営圃場整備事業起工
11月25日	立科中学校創立20周年記念式典举行、第2体育館竣工
12月20日	自動車ポンプ購入、茂田井分団へ配置

1979【昭和54年】

1月23日	第1回部落解放町民大会開催(以降毎年開催)
2月26日	同和対策事業矢原畜産団地起工
3月20日	林道箕輪平線建設事業着工
3月30日	マル牛りんご共撰所、冷蔵庫建設
4月 2日	畑作共済・園芸施設共済事業発足
4月 8日	県知事、県議会議員選挙執行
4月22日	町長、町議会議員選挙執行、町長に上原正三氏再選
5月 4日	選挙後初議会招集 <p>議長に黒沢茂平氏、副議長に角田徳市氏選出</p>
5月14日	立科小学校校歌制定、発表
6月	ブランコケムシ(マイマイガ)大発生
6月 1日	助役に高橋雅夫氏、収入役に小林敦男氏再任
7月23日	若草保育園起工
8月 3日	権現山運動公園用地買収に着手
12月27日	若草保育園竣工

1980【昭和55年】

5月 8日	石川地区同和教育集会所竣工祝賀式挙式
6月22日	衆議院参議院ダブル選挙
6月29日	姉妹都市オレゴン市を町民代表3名が訪問
8月	冷夏により農作物(特に水稻)大災害被る
8月 4日	県営圃場整備事業茂田井・牛鹿工区夏期施工始まる
8月12日	運動公園建設事業入札、工費134,000千円
9月 5日	千草保育園起工
9月20日	塩沢肉牛団地竣工
9月20日	蓼科牧場第3リフト起工
9月20日	女神湖団地町営住宅起工
9月30日	ライスセンター(農協東部支所)竣工
10月 1日	国勢調査実施、人口8,347人
10月26日	県知事選挙執行
10月30日	古町・山の神地区圃場整備事業起工
11月18日	合併25周年記念式典举行、記念誌発行(全戸配布)

1981【昭和56年】

1月 9日	林道箕輪平線第2期工事703m竣工
2月 9日	千草保育園竣工、工費136,000千円
3月20日	町地区同和教育集会所竣工、工費12,200千円

3月25日	同和対策事業矢原共同畜産団地完成、工費254,915千円
4月22日	議長に角田徳市氏、副議長に高橋忠幸氏選出
6月 1日	川西清掃センター操業開始
6月 2日	蓼科地区出張診療開始
6月28日	権現山運動公園、野球場、多目的運動場、ゲートボール場、 <p>クラブハウス、駐車場等竣工</p>
6月29日	台風10号による被害を受ける
7月17日	農業委員会委員選挙執行、定数12名、無投票当選
7月20日	農業委員会初会議、会長に鷹野利信氏選出
8月21~24日	台風15号により280,000千円の被害を受ける

1982【昭和57年】

3月 8日	茂田井保育園竣工、工費84,000千円
3月15日	林道箕輪平線第3期工事806m、 <p>樽ヶ沢線第1期工事532m竣工</p>
3月24日	畑かん用、池ノ平ため池完成、工費142,000千円
4月 1日	「同和対策事業特別措置法」が「地域改善対策特別措置法」となり5ヵ年間の時限立法として施行
6月29日	古町・山の神地区圃場整備事業竣工、工費38,480千円
7月31日	台風10号による被害を受ける
9月 1日	国道142号線茂田井バイパス供用開始
9月 7日	役場庁舎落成、工費738,930千円
9月12日	町民大運動会開催
9月28日	同和対策農業基盤整備事業石川地区圃場整備事業竣工 <p>工費279,136千円</p>
10月12日	第6回全国育樹祭が皇太子殿下、同妃殿下のご臨席を仰ぎ、 <p>南平地籍に於いて開催</p>
11月24日	土地改良総合整備事業(畑かん)起工
11月25日	蓼科牧場にスノーマシン設置

1983【昭和58年】

2月 1日	老人保健法施行
2月 8日	林道箕輪平線第4期工事219m竣工、総延長2,129m
4月10日	県議会議員選挙執行
4月11日	権現山運動公園、勤労者体育センター、テニスコート竣工 <p>工費319,332千円</p>
4月24日	町長、町議会選挙執行、町長に高橋雅夫氏無投票当選
5月 6日	選挙後初議会招集 <p>議長に角田徳市氏、副議長に芝間初太郎氏選出</p>

立科町60年のあゆみ

6月 1日 助役に小林敦男氏、収入役に小池宗一郎氏選任

6月26日 参議院議員通常選挙執行

9月24~30日 台風10号による被害を受ける

12月 8日 蓼科牧場ベアリフト運行開始、403m

12月 8日 衆議院議員選挙執行

1984【昭和59年】

3月30日 権現山配水池竣工、工費73,569千円

7月11~18日 姉妹都市オレゴン市を高橋町長他11名訪問

7月15日 農業委員会委員選挙執行、定数12名、無投票当選

7月20日 農業委員会初会議、会長に関正登氏選出

9月17日 芦田郵便局を立科郵便局に変更し、局舎新築移転

10月 9日 川西衛生センター竣工

10月21日 県知事選挙執行

11月15日 弁天神取水施設竣工、工費13,340千円

11月20日 白樺高原下水処理場増設工事竣工

12月 8日 蓼科牧場に圧雪車設置

12月25日 芦田字上青木に教員住宅建設

1985【昭和60年】

4月1~7日 姉妹都市オレゴン市よりオレゴン高校レスリングチーム

35名来町

4月11日 老人福祉センター、保健センター竣工、工費289,665千円

4月18日 議長に今井一雄氏、副議長に中島輝男氏選出

5月23日 助役に永井英雄氏選任

7月 1日 蓼科牧場ゴンドラリフト運行開始

延長1,260m、工費615,000千円

7月29日 権現山運動公園に青少年の森完成、工費9,500千円

8月 8日 合併30周年記念夏期巡回ラジオ体操、

権現山運動公園で開催、3,500名参加

9月 1日 合併30周年記念町民大運動会開催

10月 1日 国勢調査実施、人口8,455人

10月15日 中央公民館1階全面改修工事完成、工費52,617千円

11月16日 タイムカプセル埋設

1986【昭和61年】

2月15日 第1回綱引き大会開催

4月 1日 社会教育委員制度発足、蓼科有料道路、一般県道となる

5月11日 公民館図書室蔵書2万冊で開室

5月27日 凍霜害発生、果樹を中心に被害を受ける

7月 6日 衆議院参議院ダブル選挙執行

9月18日 国庫補助特殊改良第1種町道改良事業、野方中居線竣工、工費90,882千円

9月20日 西部ライスセンター竣工、工費85,595千円

10月18日 立科小学校開校10周年記念式典、記念として校歌石碑及び西門建立

11月21日 特農生活改善施設(藤沢・塩沢)竣工

12月 広域林道構造改善事業により拡張された

「しらかばスキー場」が「しらかば2in1スキー場」に名称変更

12月15日 本部消防自動車を更新

1987【昭和62年】

1月26日 主要地方道諏訪白樺湖小諸線赤沢地区交通安全対策事業着手

2月 5日 神奈川県愛川町と友好都市提携式

4月 水田農業確立対策事業(前期対策)始まる

4月 1日 「地域改善対策特別措置法」が「地域改善対策特定事業に係る国の財政上の特別措置に関する法律」となり5ヵ年間の時限立法として施行(平成14年3月31日まで延長)

4月12日 県議会議員選挙執行

4月26日 町長、町議会議員選挙執行
町長に高橋雅夫氏再選、町議会議員20名無投票当選

5月 7日 選挙後初議会招集
議長に田中賢一氏、副議長に中沢保氏選出

5月18日 国道142号線笠取バイパス供用開始

6月 立科中学校全面改築に伴う議会特別委員会設置

6月16日 町議会副議長に斉藤武氏選出

7月 1日 中学校全面改築特別小委員会始まる

7月 1日 農村総合整備モデル事業起工、予定事業費1,310,000千円

7月12日 農業委員会委員選挙執行、定員12名無投票当選

7月23日 農業委員会初会議、会長に高橋要次郎氏選出

7月29日 姉妹都市オレゴン市へ29名親善訪問

8月 1日 第3期山村振興農林漁業対策事業起工

予定事業費252,000千円

8月12日 権現山運動公園野球場夜間照明設置、総工費46,000千円

9月13日 第15回佐久ブロック大会ソフトボール、軟式庭球、立科会場で開催

10月 8日 1級河川赤沢川藤沢地区改修事業開始

10月12日 主要地方道路諏訪白樺湖小諸線藤沢バイパス事業着手

10月31日 国道254号線蟹窪バイパス事業着手

11月25日 塩沢地区県営圃場整備事業竣工式挙行政
総工費1,388,078千円

12月25日 西の沢砂防ダム竣工、工期昭和55年10月22日~昭和62年12月25日、工費636,000千円

1988【昭和63年】

2月24日 班別同和教育開始

3月14日 長野県早起野球連盟主催、冬季オリンピック招致のための炬火リレーが立科町を經由し長門町から望月町へ通過

3月23日 町営住宅真蒲団地建設第1期工事竣工(10戸)

6月 9日 消防ポンプ操法大会が水出し操法に要綱改正される

7月 1日 ボランティア振興センター設立

7月 2日 中学校全面改築起工

8月 冷夏により農作物(水稻)に被害を受ける

8月 1日 御泉水太鼓の披露会開催

8月18日 芦田宿本陣客殿、県宝指定を受ける

10月16日 県知事選挙執行

11月30日 町営住宅真蒲団地建設第2期工事竣工(10戸)
総工費241,723千円

12月 刀匠宮入清平氏より、立科町へ日本刀寄贈

道具の疎開先が立科町だったことが縁となる

1989【平成元年】

1月31日 第3期山振事業野菜予冷库竣工

2月 6日 中学校体育館工事始まる

2月28日 県営圃場整備事業塩沢地区工事完了

3月25日 1級河川番屋川山部地区改修事業竣工

工期昭和55年12月3日~平成元年3月25日

工費327,500千円

4月 1日 特別養護老人ホーム徳花苑(佐久地域広域行政事務組合により建設され、立科町が管理運営する)開所
事業費568,827千円

4月10日 大庭遺跡発掘調査着手

4月24日 塩沢地区草地造成竣工

4月24日 町議会議長に両角順一氏、副議長に今井今朝禧氏選出

7月 3日 助役に田中恒幸氏選任

7月18日 中学校旧校舎お別れ式挙行政

7月19日 中学校旧校舎取り壊し始まる

7月23日 参議院議員通常選挙執行

7月30日 中学校校舎棟竣工

8月5~9日 姉妹都市オレゴン市より18名来町

8月10日 中学校体育館竣工

11月30日 中学校プール竣工

1990【平成2年】

2月 6日 千曲川高原リゾート構想「女神湖地区」認定

2月 8日 りんごジュース加工施設竣工、工費16,480千円

2月14日 日本消防協会表彰旗受賞

2月18日 衆議院議員選挙執行

3月20日 土地改良総合整備事業(畑かん施設)竣工
工費535,890千円

3月24日 中学校全面改築竣工及び開校30周年記念式典挙行政

3月28日 外倉防霜ファン施設竣工、工費73,191千円

3月31日 町内文化財案内板新設(案内板21ヶ所、標識4ヶ所)

4月 1日 町誌編纂着手

5月 3日 第1回駅伝大会開催、優勝茂田井チーム

7月15日 農業委員会委員選挙執行、12名無投票当選

7月30日 中学校校庭及び部室竣工

8月 4日 白樺湖自然散策路整備事業竣工

8月 5日 第1回町民まつり「立科えんでこ」を運動公園にて開催

9月 2日 町民大運動会開催

10月 下水道事業、外倉農集排着工

10月 1日 国勢調査実施、人口8,680人

11月 8日 合併35周年記念式典挙行政

11月30日 蓼科園地(野外音楽堂外)竣工、工費226,868千円

12月10日 デイサービスセンター竣工、工費103,459千円

12月10日 南平クワッドリフト竣工、工費484,100千円

12月10日 しらかば2in1スキー場に人口降雪システム、ゲレンデ整備工事竣工

1991【平成3年】

1月10日 松並木公園整備事業着工

1月18日 デイサービスセンター開所

立科町60年のあゆみ

3月26日	地籍調査事業完成記念式典（18年の歳月と4億5,964万円余りの費用を要して完成）
4月 7日	県議会議員選挙執行
4月21日	町長、町議会議員選挙執行、町長に高橋雅夫氏再選
5月 8日	町議会議長に岩下功氏、副議長に今井一成氏選出
5月16日	収入役に小池宗一郎氏再任(3期目)
8月 1日	蓼科地区で戸籍・住民票の交付事務始める
9月17日	福祉バス運行開始
11月	ふる里カルチャー事業開始
11月23日	蓼科すずらん会設立、会長に片桐長治氏選出
12月20日	藤沢地区コミュニティ・プラント整備事業着手

1992【平成4年】

2月 1日	茂田井特定環境保全公共下水道事業着工
2月 8日	立科中学校にパソコン22台導入
3月 3日	立科中学校に学校目標にちなんで「心の太陽」の女神像建立
3月10日	県営茂田井地区圃場整備事業工事完了
3月20日	蓼科遊歩道着工、工費89,198千円
5月20日	野方・塩沢地区農業集落配水事業着工
5月28日-6月7日	姉妹都市オレゴン市ジャパンウィークへ参加 御泉水太鼓チームと町民31名が訪問する
7月26日	参議院議員通常選挙執行
9月12日	学校で月1回(第2土曜日)週休2日制始まる
10月18日	長野県知事選挙執行
10月26日	教育長に中島正恵氏就任
12月10日	白樺高原国際スキー場整備竣工 ゲレンデ整備75,000㎡、クワッドリフト新設680m
12月22日	屋内多目的運動場竣工、工費85,370千円
12月22日	中央公民館改修工事竣工、工費102,063千円

1993【平成5年】

3月 3日	立科特定環境保全公共下水道事業着工
3月27日	上信越道「佐久インター」開通
3月31日	藤沢地区コミュニティプラント整備事業完了 事業費430,250千円
3月31日	松並木公園竣工
4月	役場完全週休2日制を実施
4月 1日	川西保健衛生施設組合粗大ごみ最終処分場供用開始

4月28日	町議会議長に市川元将氏、副議長に今井一成氏選出
4月30日	高齢者生きがいセンター竣工
5月 1日	美谷沢産業廃棄物処理場供用開始
6月-平成6年3月	雨境峠祭祀遺跡群発掘調査実施される
6月25日	蓼科ふれあいセンター竣工、工費317,209千円
7月 4日	助役に田中恒幸氏選任(2期目)
7月11日	第15回農業委員統一選挙
7月18日	衆議院議員総選挙、最高裁判官国民審査執行
8月 1日	外倉処理区供用開始、藤沢コミュニティ・プラント供用開始
8月10日	信州博覧会川西催事参加
8月30日	山部・牛鹿地区農業集落配水緊急整備事業着工
9月 1日	川西地区4農協が合併し「佐久しらかば農業協同組合」が発足

1994【平成6年】

3月25日	女神湖センター竣工、工費146,596千円
3月30日	外倉地区農業集落配水事業完了、事業費946,100千円
6月 4日	姉妹都市提携20周年、町議会オレゴン市訪問
6月19日	白樺高原ビーナスマラソン大会in女神湖開催
7月 1日	立科町における部落差別撤廃とあらゆる差別を無くすことをめざす条例施行
7月30日-8月8日	姉妹都市提携20周年オレゴン市民15名来町
9月 4日	町民大運動会開催、茂田井分館優勝
9月 5日	大城住宅団地造成始まる
9月 9日	県営圃場整備事業番屋地区竣工記念碑建立
11月23日	西塩沢農村整備促進委員会、豊かな村づくり部門で 内閣総理大臣賞受賞
12月10日	白樺高原総合観光センター竣工、工費596,026千円

1995【平成7年】

2月	大城団地分譲始まる
3月28日	第3次長期振興計画策定される、テーマ「人と自然が輝く町」
4月	千草保育園で延長保育開始
4月 5日	権現山運動公園地籍にて温泉の掘削始まる
4月 8日	学校が月2回(第2・4土曜日)週休2日制始まる
4月 9日	県議会議員一般選挙執行
4月23日	町長・町議会議員一般選挙執行、町長に遠山順孝氏初当選
5月 8日	町議会議長に大森春雄氏、副議長に宮下正一氏選出
5月16日	助役に宮沢政恒氏、収入役に宮下武浩氏選任
7月18日	デイサービスセンター・介護支援センター着工

7月20日	女神湖周遊散策路整備工事竣工、工費142,321千円
7月23日	参議院議員通常選挙執行
7月27日	白樺高原下水処理場第4期増設工事竣工 工費253,103千円
8月 8日	国道142号線立科町全線改良完成
9月	権現山運動公園にマレットゴルフ場竣工
10月	蓼科遊歩道「親水ミニパーク」整備事業竣工工費181,839千円
10月 1日	国勢調査実施、人口8,712人
10月 1日	教育相談員設置・中間教室開設
10月19日	合併40周年記念式典挙行、町誌発刊(自然編)
12月 1日	野方塩沢処理区供用開始

1996【平成8年】

3月23~30日	姉妹都市オレゴン市へ6名ホームステイ(中学校)
3月27日	心かよう館竣工
4月 1日	デイサービスセンターやすらぎ事業開始
4月 1日	茂田井処理区供用開始
5月 1日	茂田井町営住宅竣工
5月~	松くい虫異常発生
7月 7日	第16回農業委員会統一選挙
7月14日	権現山運動公園にて温泉湧出
7月24日	農業委員会初会議、会長に遠山達雄氏選出
8月 1日	住民情報システム(住民票)OA化スタート
10月 1日	デジタル有線放送を活用した水道・ガスの自動検針運用開始
10月 1日	いじめ・非行対策本部設置
10月 6日	立科小学校開校20周年記念式典
10月26日	教育長に中島正恵氏再任
10月20日	衆議院議員総選挙、最高裁判所裁判官国民審査、 長野県知事選挙
11月 1日	全国優良公民館表彰受賞
11月15日	白樺高原国際スキー場ゲレンデ整備、工事竣工、 工費105,060千円
11月29日	水道夢の平~万仁田間導水施設竣工

1997【平成9年】

2月26日	大深山集会施設建設
3月26日	滝神農村公園竣工
3月31日	大城教員住宅竣工
3月31日	風の子広場水路(用水路改修工事)、

	ふるさと水と土ふれあい事業竣工
3月31日	西塩沢水辺公園竣工
4月 1日	印鑑登録事務OA化スタート
4月 1日	大城団地が立科町の16番目、大城区となる 愛称「スターヒルズ大城」
5月 8日	議会議長に永井宗夫氏、副議長に金子忠一氏選出
6月 1日	立科町「部落差別撤廃とあらゆる差別をなくすことをめざす」 推進本部設置
7月11日	さんまのからくりテレビ「ご長寿早押しクイズ」収録 伊藤龍雄氏、成沢基美氏、小宮山時男氏出場
8月 1日	姉妹都市オレゴン市より中学校へAET招致 親善大使兼英語指導助手に クリスティン・ノリコ・パスタチャイルド氏就任
9月 5日	茂田井農村公園竣工
10月 1日	大城ふれあい農園開園
11月28日	しらかば2in1スキー場ゲレンデ整備竣工、工費87,675千円
12月 1日	山部牛鹿処理区供用開始

1998【平成10年】

1月 9日	雪害発生(パイプハウス・人参小屋・農機具倉庫等)
1月27日	長野オリンピック聖火リレー通過
2月27日	児童館竣工
3月 1日	ハチヶ峰及び東白樺湖地区の一部が県の景観形成重点 地域に指定される
3月25日	立科町「部落差別撤廃とあらゆる差別をなくすことをめざす」 総合計画策定
3月27日	平林集会施設建設
4月 1日	立科処理区供用開始
4月23日	立科温泉たてしなの里「権現の湯」竣工、24日オープン
4月29日	白樺植樹祭(15,000本)
5月20日	アクティブ権現の杜公園竣工
6月 5日	立科町ホームページ開設、観光・イベントを中心に情報提供
7月 1日	立科町「人権教育のための国連10年」推進本部設置
7月12日	参議院議員通常選挙執行
8月	小・中学校大規模改修工事(下水道接続)
8月10日	へい獣処理一時保管施設設置
8月21~25日	姉妹都市提携25周年、 町長、議長、姉妹都市委員長、オレゴン市を訪問
9月 5日	立科中学校創立40周年記念式典
9月13日	町民大運動会開催、茂田井分館優勝
9月15~16日	台風5号災害発生

立科町60年のあゆみ

9月28日 水道中央監視システム・自動検針竣工式
10月 1日 24時間巡回型ホームヘルプサービス開始

1999【平成11年】

3月12日 「人権教育のための国連10年」推進立科町行動計画策定
3月16日 立科町地域振興券の交付開始
3月31日 有害動植物防除対策美上下地区シカ防護柵設置
4月 1日 宇山処理区供用開始、全処理区供用開始となる
4月11日 長野県議会議員一般選挙執行
4月25日 町長・町議会議員一般選挙執行、町長に遠山順孝氏再選
4月30日 凍霜害発生(雨量97mm)被害額27,000千円
5月 2日 白樺湖植樹祭(15,000本)
5月 7日 議員定数18名から16名に削減
議会議長に小池守一氏、副議長に山越敏子氏選出
5月 7日 助役に宮沢政恒氏、収入役に宮下武浩氏再任
6月 1日 廃プラ・不要農薬回収
6月29~30日 豪雨災害
8月14~16日 豪雨災害
7月11日 第17回農業委員統一選挙
7月22日 農業委員会初会議、会長に羽田袈裟巳氏選出
8月 オレゴン市より姉妹都市親善大使兼英語指導助手に
クリスティン・イングルブレッツン氏就任
9月 小・中学校コンピュータ導入・インターネット接続
9月10日 細谷定住促進住宅竣工
10月 1日 一般廃棄物の18分別回収始まる
10月17日 参議院議員長野県選出議員補欠選挙執行
11月22日 白樺高原国際スキー場パトロール室建設工事竣工、工費9,554千円
11月23日 SBCカラオケのど自慢「権現の湯」大会開催

2000【平成12年】

2月 1日 高齢者生活支援共同住宅「あんしん」及び、
短期入所生活介護施設開所
2月 4日 全国町村議会議長会より優良議会表彰を受ける
2月 9日 県営圃場整備丸山地区竣工
3月 1日 佐久浅間農協合併
3月10日 蟹原集会所施設竣工
3月30日 第三次長期振興計画「後期基本計画
(平成12年度~平成16年度)」策定
4月 1日 佐久広域連合発足(16市町村)

4月 1日 立科町介護事業所を介護保険施行にあわせ、
「ハートフルケアたてしな」として介護サービス事業を開始
立科町公文書公開条例施行
4月18日 精神障害者共同作業所(どんぐりの家)竣工
4月29日 白樺植樹祭(15,000本)
5月13日 「権現の湯」来館者50万人突破
6月25日 衆議院議員総選挙、最高裁判所裁判官国民審査執行
7月12日 芦田宿街路灯整備工事竣工、工費22,575千円
8月 6日 町道芦田大通り線供用開始、芦田宿に灯籠型街路灯設置
8月 7日 陣内森林公園オープン
8月31日 青少年交流センター竣工
9月20日 SBC「ほっとスタジオSBC」立科町から生中継
10月 1日 国勢調査実施、人口8,509人
10月15日 長野県知事選挙執行
10月22日 蓼科高等学校創立100周年記念式典举行
10月26日 教育長に相澤利朗氏就任
11月 9日 立科町合併45周年記念式典举行、記念誌全戸配布
11月28日 蓼科高等学校にて地歴・公民科公開授業開催
(長野県平成12年度個性のある高校づくり推進事業)
12月12日 立科町名誉町民条例制定
12月 桐の杜公園にあずまやとベンチを設置
(平成12年度宝くじ普及事業)

2001【平成13年】

1月18日 町区コミュニティセンター竣工
2月 9日 たてしな人権センター竣工(4月1日開館)
3月30日 サンセットポイント竣工、工費7,686千円
4月 1日 家電リサイクル法施行
4月 1日 立科町個人情報保護条例施行
4月 1日 役場時間外窓口業務開始(毎週月曜午後7時まで)
4月24日 町議会議長に荻原正義氏、副議長に今井昇一氏選出
4月29日 白樺の道植樹祭、三矢工業(株)より白樺の苗木1,000本寄附
6月18日 戸籍事務コンピュータ化スタート
7月23日 蓼科分団、牛鹿分団に消防積載車を配備
7月29日 参議院議員選挙執行
(議員定数削減、非拘束名簿式比例代表制適用)
8月 オレゴン市より姉妹都市親善大使兼英語指導助手に
ジェフリー・ウィリアム・クルーガー氏就任
8月 1日 立科温泉「権現の湯音頭」発表会、作詞・作曲 荻原邦久氏
8月29日 御泉水自然園ビジターセンター起工式
9月 1日 立科町消防団大城分団発足

9月20日 陣内森林公園、(主)諏訪白樺湖小諸線三望台、
三望台ツツジ公園、若者町営住宅(細谷町営住宅)の
4事業合同竣工式举行
10月12日 田中知事が蓼科高等学校を訪問(どこでも知事室開催)
10月21日 白樺高原を会場に、立科町観光フォトコンテスト開催
参加者300名

2002【平成14年】

2月 9日 川西四ヶ町村合併問題研究会設立
4月 生涯学習・青少年のための人材バンク設立
4月 生きがい対応型デイサービス「ふれ愛・あした塾」開所
4月 ビーナスライン全線無料化に伴い林道夢の平線も無料化
県道62号夢の平線となる
4月22日 交通死亡事故ゼロが1,000日達成
4月25日 御泉水自然園ビジターセンターオープン
4月25日 立科町共生いきがいセンター竣工
4月25日 蓼科高等学校社会教育コース「地域」授業にて
遠山順孝町長が生徒と対話
4月27日 休憩小屋付市民農園「クラインガルテン」竣工
蓼科農ん喜村開村
5月16日 立科小学校6年3組総合的学習より
「立科ビューティフルプロジェクト」として、
立科小・中学校・蓼科高校の三校合同で町内の清掃を行う
5月21日 全町下水道供用開始
7月 7日 長野県木と緑のふるさとフェアが女神湖周辺で開催
県内外より2,000人の来場者
7月 7日 農業委員会委員選挙執行
7月20日 農業委員会初会議、会長に羽田袈裟巳氏選出
7月24日 作家の土屋隆夫氏が立科町第一号名誉町民に選ばれる
8月1~5日 オレゴン親善大使訪問団10名が町民まつりにあわせて来町
8月 5日 住民基本台帳ネットワークシステム第1次サービススタート
8月13日 立科温泉権現の湯来館者100万人突破
8月21日 蓼科地区介護予防拠点整備事業健康支援センター起工式
9月 集落案内板設置、町内37ヶ所
9月 8日 町民大運動会開催、町分館優勝
9月11日 諏訪大社上社「式年造営御柱大祭」御柱仮見立が
約1,000人が見守る中、立科町の町有林で行われる
10月 第1回市町村合併アンケート実施
合併を積極的に進めるべき・
合併をどちらかといえば進めるべき…38.6%
合併を進めるべきではない・

合併をどちらかといえば進めるべきではない…34.6%
わからない・無回答…26.8%
11月16日 商工祭が「多来福(たらふく)まつり」に名称変更して開催
12月10日 夢の平展望台竣工、工費4,956千円

2003【平成15年】

1月12日 蓼科高等学校吹奏楽部
「スチューデント・ジャズフェスティバル2003」に出場
映画「スウィングガールズ」のモデルの中の一つに
1月13日 商工会青年部主催のどんど焼き「立科どんど」が
権現山多目的グラウンドで開催
2月 7日 蓼科ふれあい健康支援センター女神竣工
生きがい対応型デイサービス開所
3月16日 国際交流パーティー開催
立科町在住の外国籍の方と子供たちが交流
4月 1日 立科町町民証を希望者に有償発行開始
4月13日 長野県議会議員一般選挙執行
立科町から寺島義幸氏(4期)、今井正子氏(初)の2名が当選
4月27日 立科町長・立科町議会議員一般選挙執行
町長に遠山順孝氏再選(3期目)
5月 立科町ブックスタート事業「親子ふれあい絵本プレゼント」開始
5月 6日 町議会議長に宮下典幸氏、副議長に竹花政彦氏選出
5月11日 白樺植樹祭(4千本)
5月12日 助役に宮沢政恒氏、収入役に宮下武浩氏再任
5月22日 陣内地籍三望台にてレンゲツツジの植栽とヒノキの枝打ちを
横浜共立学園中学2年生が体験
5月30日 蓼科牧場ゴンドラリフト山頂駅近くに展望トイレ竣工
工費23,835千円
6月21日 御柱祭本見立「諏訪大社上社御柱祭の本見立神事」開催
8月25日 住民基本台帳ネットワークシステム第2次サービススタート
10月 第2回市町村合併アンケート実施
自立すべき…67.5%
合併すべき…30.3%
無回答……………2.2%
10月27日 個別排水処理施設設備事業合併浄化槽設置工事
(中尾・美上下地区)供用開始
11月 蓼科農ん喜村「交流促進センター」竣工
11月 オレゴン市より姉妹都市親善大使兼英語指導助手に
ステイーブン・トート・エドワーズ氏就任
11月14~18日 故小川傳四郎氏より絵画19点寄贈、絵画展開催
11月28日 構造改造特別区域計画「都市農村交流空間創造特区」認定

立科町60年のあゆみ

12月20日 蓼科牧場ゴンドラリフト機器リニューアルオープン工費119,700千円

2004【平成16年】

1月 古町区コミュニティセンター竣工
3月 立科町畜産物キャッチフレーズが武重明広氏の「おいしさいっぱい愛情いっぱい立科産」に決定
立科農畜産物認証マーク決定

3月18日 御柱上社御柱祭用材伐採

4月 1日 立科小学校長に竹内正俊氏就任

4月 3日 諏訪大社上社御柱祭本宮一の木落し

5月 2日 御柱祭上社里曳きに立科神輿之会約90名が立科の神輿のもとに参加

5月16・22日 中山道ウォーキング開催。2日で述べ700名参加

6月 広報たてしな特別号「自立に向けたまちづくり」発行

7月 茂田井町営住宅竣工(6戸)

7月7~14日 オレゴン市姉妹都市提携30周年、訪問団総勢15名がオレゴン市を訪問し記念式典に参加

7月11日 衆議院議員選挙通常選挙執行、期日前投票制度創設

7月12日 公的個人認証サービス開始

8月11日 立科町水辺教室開催、浄化槽を工事・設置した仲間が発足した蓼科の水を考える会が開催

8月15日 立科町ふるさと交流館「芦田宿」オープン
オープニングイベント小川傳四郎絵画展

9月15日 教育長に相澤利朗氏再任

10月20日 台風23号土砂崩れなどの災害発生

10月28日 立科町・オレゴン市姉妹都市提携30周年記念式典挙行
農ん喜村内で記念碑除幕式等を行う

12月12日 柳沢公民館竣工

2005【平成17年】

2月 1日 認知症対応型共同生活介護施設「グループホームだんらん」開所

3月26日 第4次長期振興計画策定

4月 1日 収入役を置かないこととし、収入役業務は助役が兼掌

4月 1日 立科町自立計画策定

4月26日 議会構成変わる、議会議長に宮下典幸氏、副議長に倉沢修氏選出

5月16日 「立科町に野草を増やす会」が女神湖畔に減少傾向のユウスゲを植栽

5月26日 権現山運動公園マレットゴルフ場に増設9ホールが完成
(立科町マレットゴルフクラブ員による手造り)

7月 4日 蓼科第二牧場県営草地整備事業着手、工費1,021万円

7月 5日 御柱祭用材伐採地に自然散策路
「堰・清流・巨木への道」整備

7月10日 田中康夫、長野県知事が立科町を視察

7月10日 農業委員会委員一般選挙

7月26日 農業委員会初会議、会長に羽田袈裟巳氏選出

8月 1日 オレゴン市より姉妹都市親善大使兼英語指導助手(AET)にジェフリー・ウイリアム・クルーガー氏就任

10月25日 立科町合併50周年記念式典挙行、記念誌全戸配布

11月30日 しらかば2in1スキー場に「ポーラー カルーセル」竣工、工費300万円

12月10日 白樺高原国際スキー場「フォレストコース」全長3.5kmを新設

2006【平成18年】

1月 4日 立科町出前講座開始

2月 5日 第1回いきいきネットたてしな開催

2月22日 塩沢堰が農林水産省の疏水百選に認定される

3月24日 茂田井保育園44年の歴史に幕

4月 1日 立科町「地域包括支援センター」開設
千草保育園2歳児のたんぱぽ組誕生

6月 1日 立科町行政改革大綱(第三次改訂)・集中改革プラン策定

8月 3日 立科町子育て支援センターが開所

8月 6日 長野県知事選挙執行、村井仁氏が初当選

9月10日 町民大運動会開催、町分館、野方分館優勝(同点)

10月 7日 立科小学校開校30周年記念式典挙行

10月15日 立科町総合防災訓練

11月 4日 第1回「たてしなふれ愛むら」開催

12月 9日 白樺高原国際スキー場「フォレストコース」全長5kmに延長

2007【平成19年】

2月25日 牛鹿区外倉コミュニティセンター竣工

4月 8日 長野県議会議員一般選挙執行

4月 8日 立科町から寺島義幸氏(5期)、今井正子氏(2期)が当選

4月22日 立科町長・立科町議会議員一般選挙執行

4月22日 町長に小宮山和幸氏が無投票で初当選

5月 8日 議員定数16名から12名に削減

5月 8日 町議会議長に佐藤巍氏、副議長に中島稲夫氏選出

5月12日 相模原市と「経済・観光に関わる交流協定」締結

5月16日 副町長に森澤光則氏選任

6月23日 姉妹都市オレゴン市長、姉妹都市会長他5名来町

6月30日 虎御前公民館竣工

7月 1日 教育長に塩澤勝巳氏就任

9月 2日 立科町総合防災訓練(南部地区)

10月 1日 電話の通話区域が「小諸エリア」から「佐久エリア」に変更

12月 1日 「消防団協力事業所表示制度」運用開始

12月25日 原油価格高騰に対する緊急支援策として「立科町福祉灯油券」を給付

2008【平成20年】

1月13~20日 長野県信濃美術館移動展開催(ふるさと交流館「芦田宿」)

1月25日 北青木住宅団地竣工式

2月 3日 「町づくり研究会」が公募町民179名で発足

3月12日 「町づくり戦略会議」設置、20名の委員に委嘱書を交付

3月22~29日 立科中学校1年生3名、2年生3名がオレゴン市を訪問

3月29日 蓼科高校ジャズクラブがアメリカワシントンの桜まつりでコンサート

4月 1日 若草保育園で一時期保育を開始

4月 1日 「がんばる地域応援事業交付金」制度スタート

4月 1日 御泉水自然園の管理を索道事業特別会計へ移行

6月16日 「立科町水道水源保護条例」及び「立科町水道水源保護審議会条例」制定9月1日施行

7月 6日 農業委員会委員選挙執行

7月27日 第50回長野県消防ポンプ操法大会、第17回長野県消防ラッパ吹奏大会が、女神湖多目的運動場と蓼科園地野外音楽ホールで行われる

7月28日 農業委員会初会議、会長に寺島秀勝氏選出

8月 2日 第19回町民まつり「立科えんでこ」に「よさこい立科」を取り入れる

9月20日 立科中学校創立50周年記念式典挙行

9月21日 立科町総合防災訓練(西部地区)

11月15日 第1回「中山道ウォーキングinたてしな」開催

11月28日 「朝日の丘公園」竣工、工費3,230万8,500円

12月23日 新宿からのスキー場直行バス運行

2009【平成21年】

1月 5日 「ふるさと立科応援隊」を結成

1月15日 立科町緊急経済対策本部を設置

1月25日 第1回立科町学校合同コンサートを上田市丸子文化会館 セレスホールで開催

2月 1日 「権現の湯」の熱源をヒートポンプ方式に変え、

サウナの全面改修を行いリニューアルオープン

2月16日 村井仁、長野県知事が立科町を公式視察
(国道254号宇山バイパス、笠取峠のマツ並木、蓼科農ん喜村交流促進センター)

3月19日 町の文化財第六集「たてしなの地名」刊行

4月20日 議会構成変わる、議会議長に箕輪修二氏、副議長に中島稲夫氏選出

4月30日 新型インフルエンザ対策本部設置

8月25日 「権現の湯」の入館者が250万人を達成

8月30日 衆議院議員総選挙、最高裁判所国民審査執行

9月27日 立科町総合防災訓練(東部・茂田井地区)

9月30日 22年間運行した「福祉バス」が終了

10月 1日 「たてしなスマイル交通」の実証運行が3ルートにより開始

11月17日 白樺高原国際スキー場に「キッズウェイ」日本最長級102m竣工、工費1617万円

12月 6日 立科小学校6年2組が「第9回ふるさとCM大賞NAGANO」でハッスル賞を受賞

2010【平成22年】

2月 5日 児童館増築工事竣工

3月10日 第4次長期振興計画、後期基本計画策定

3月15日 長野県議会第84代議長に寺島義幸氏就任

3月15日 信州ハム株式会社・佐久浅間農業協同組合・同組合畜産協議会しらかば肉牛部会・立科町による「信州蓼科牛」登録商標共有使用に関する協定書調印式

3月19日 県宝「旧芦田宿本陣土屋家住宅」第一期修繕工事竣工(~23年度)

3月20~27日 立科中学校1年生2名、2年生6名がオレゴン市を訪問

3月25日 子育て支援住宅「サンコーポ芦田宿」竣工、工費1億4,851万円

3月26日 立科町男女共同参画長期プラン作成

3月29日 国道254号宇山バイパス極楽坂工区680m竣工

4月 1日 望月警察署が佐久警察署に再編、川西庁舎望月警部交番となる

4月 1日 「たてしなスマイル交通」の実証運行ルートを4ルートに変更

5月 御泉水自然園内に御泉水の水汲み場設置

5月24日 県天然記念物「笠取峠のマツ並木」

保存管理計画策定委員会発足(~23年度)

7月 9日 信州大学・長野大学・立科町による地域ブランド共同研究

契約調印式

7月11日 参議院議員通常選挙執行

8月 8日 長野県知事、長野県議会議員佐久市・北佐久選挙区補欠

選挙執行、長野県知事に阿部守一氏が初当選

立科町60年のあゆみ

- 9月12日 町民大運動会開催、町分館優勝
- 10月17日 立科町合併55周年記念式典挙行
- 11月 1日 蓼科御泉水「幸せの鐘」が恋人の聖地に認定
- 11月 7日 第1回立科の味「料理コンテスト」開催

2011【平成23年】

- 1月28日 立科町未来創造塾
地域資源を活用したブランド構築活動策発表会
- 2月 3日 上田市が中心市宣言
立科町も上田地域定住自立圏域に参加を表明
- 3月11日 東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）発生
立科町震度4
- 3月12日 長野県北部地震発生
- 3月30日 地域情報通信基盤整備事業竣工、
総事業費4億1,400万円
- 4月 1日 立科町災害対策支援本部を設置
- 4月 1日 地域情報通信基盤整備事業により、蓼科地区・中尾・美上下
地区への音声告知放送を開始、光ファイバー網を利用した
行政情報のデジタルデータ放送を開始
- 4月 1日 子宮頸がんワクチン・ヒブワクチン・小児肺炎球菌ワクチンの
予防接種無料化
- 4月 6日 公民館報「館報立科」50号を発行
- 4月 7日 「たてしなふれ愛園」開所
- 4月10日 長野県議会議員一般選挙執行
立科町から寺島義幸氏（6期）、今井正子氏（3期）が当選
- 4月24日 立科町長・立科町議会議員一般選挙執行
町長に小宮山和幸氏が無投票で再選
議会議員一般選挙無投票
- 5月 6日 町議会議長に瀧澤壽美雄氏、副議長に橋本昭氏選出
- 6月 1日 株式会社 立科町農業振興公社（屋号：信州たてしな屋）
設立資本金1千万円
- 6月24~27日 立科町社会福祉協議会が震災復興支援ボランティアを募り、
岩手県大槌町へ
- 7月10日 農業委員会委員選挙執行
- 7月21日 佐久市が中心市宣言
立科町も佐久地域定住自立圏域に参加を表明
- 7月27日 上田地域定住自立圏協定書締結
- 8月15日 オレゴン市より姉妹都市親善大使兼英語指導助手（AET）に
アリッサ・ハナエ・コイダ氏就任
- 8月20日 震災復興支援「プレミアム付きたてしな商品券」を商工会で
販売、プレミアム分10%助成

- 10月17日 県道牛鹿望月線整備促進期成同盟会が設立
- 10月24日 町長・議長、岩手県大槌町を訪問し義援金を届ける
- 12月16日 立科町ブランドロゴ及びキャラクター決定
【キャラクター名：しいなちゃん】

2012【平成24年】

- 1月12日 佐久地域定住自立圏協定書締結
- 1月28日 「権現の湯」の入館者が300万人を達成
- 2月27日 公共施設等の空間放射線量の定期測定開始
町ホームページで公表
- 3月15日 子育て支援住宅「サンコーポ芦田宿南」竣工、
総事業費247,885千円
「細谷朝日ヶ丘団地」竣工、総事業費67,290千円
- 3月19~26日 立科中学校1年生6名、2年生2名がオレゴン市を訪問
- 4月 1日 「たてしなスマイル交通」4ルートで本格運行開始
- 4月 1日 白樺高原観光協会、
「一般社団法人蓼科白樺高原観光協会」として法人化
- 4月 2日 立科町マスコットキャラクター「しいなちゃん」に辞令交付
- 6月11日 総合保育園起工
- 6月13日 立科町地下水保全条例を制定（平成24年7月1日施行）
- 7月24日 清瀬市と「災害時相互応援に関する協定」を締結
- 8月 7日 一般財団法人中部電気保安協会長野支店と
「災害時における電気の保安に関する協定」を締結
- 10月 1日 教育委員長に米澤修一氏選任
- 11月19日 統合保育園の名称を「たてしな保育園」と決定（応募者46名）
- 12月 しらかば2in1スキー場にキッズウェイ導入
- 12月16日 衆議院議員総選挙執行、日向の寺島義幸氏（民主党）が
初当選（立科町で初めての国会議員誕生）

2013【平成25年】

- 1月18日 索道事業の再構築について、
「索道事業経営改善検討委員会」に諮問
- 2月 1日 上田地域定住自立圏形成協定に基づく上田市内の公共図
書館の利用開始
- 2月20日 国道254号立科町宇山バイパス（矢原工区）起工
- 3月12・13日 立科町議会初の「予算特別委員会」を開催
- 3月15日 故遠山順孝氏に内閣総理大臣より従六位の位記が授与される
- 3月22日 千草・若草・三葉保育園、閉園
- 3月27日 たてしな保育園竣工
- 3月30日 ハートフルケアたてしな、譲渡

- 4月 1日 ハートフルケアたてしな、社会福祉法人化
（徳花苑・デイスサービスセンターむつみ、やすらぎ・
グループホームだんらん）
- 4月 1日 立科町不妊治療費助成金交付事業開始
- 4月 3日 たてしな保育園、開園
- 4月18日 索道事業経営改善検討委員会から答申
- 4月22日 町議会議長に瀧澤壽美雄氏、副議長に小池美佐江氏選出
- 5月 5月の日照時間、立科町が全国1位
（6月5日付信濃毎日新聞掲載）
- 5月 1日 立科教育、小・中・高連携授業開始
- 7月18日 故高橋雅夫氏に内閣総理大臣より従六位の位記が授与される
- 9月 1日 御泉水太鼓25周年記念演奏会
- 9月15~16日 台風18号により耕地、道路ほか被災
- 9月24日 清瀬市・立科町及び各社会福祉法人との
「災害時相互支援協定」を締結
- 10月17日 Jアラート（全国瞬時警報システム）を
有線放送と音声告知放送に接続
- 11月15日 索道事業の指定管理者制度導入について、
索道事業あり方研究会議に諮問
- 12月 7日 阿部知事と町民によるタウンミーティング開催
- 12月 9日 野方下宮地裏住宅団地起工
- 12月19日 立科町・長和町消防団隣接地域の消防応援活動について
（申し合わせ事項）調印

2014【平成26年】

- 1月31日 立科町・一般社団法人長野県建築士会佐久支部
災害時における応急危険度判定等の協力に関する協定を締結
- 2月16日 記録的大雪、14~15日降雪（役場駐車場の積雪約95cm）
- 2月25日 立科町・長野県LP協会佐久支部・一般社団法人長野県
LPガス協会災害時におけるLPガスに係る協力に関する
協定を締結
- 3月20~27日 立科中学校1年生4名、2年生4名がオレゴン市を訪問
- 4月 1日 蓼科山の標高改定、2,531m
（国土地理院発表：10cmの位を四捨五入した標高）
- 4月 2日 たてしな保育園の園歌発表、作詞作曲は松任谷由実さん
- 4月29日 ふるさと交流館「芦田宿」リニューアルオープン
- 4月30日 野方下宮地裏住宅団地竣工
- 6月16日 「権現の湯」の入館者が350万人を達成
- 6月20日 オレゴン市・立科町姉妹都市提携40周年記念式典挙行
オレゴン市からエリス姉妹都市委員長ほか
総勢7名の訪問団が来町

- 6月24日 故今井一成氏に内閣総理大臣より旭日単光章授与される
- 7月 8日 立科町スポーツ少年団男子バレーボール部
北信越大会出場
- 7月15日 「佐久市・北佐久郡環境施設組合設立に関する協定書」調印
- 8月 1日 蓼科ケーブルビジョン、地域情報チャンネル
（第2コミュニティチャンネル）放送開始
- 8月10日 長野県知事選挙及び長野県議会議員補欠選挙執行
長野県知事に阿部守一氏再選
- 8月15日 オレゴン市より姉妹都市親善大使兼英語指導助手（AET）に
ホランド・トレバー・ジェンセン氏就任
- 8月18日 オレゴン市・立科町姉妹都市提携40周年記念事業として、
森澤光則副町長・浦野健司姉妹都市委員長ほか総勢6名
オレゴン市を表敬訪問
- 9月 5日 長野県LP協会佐久支部青年部会から炊き出し器具を寄贈
- 9月 7日 町民大運動会、雨天のため中止
- 10月 1日 立科町・佐久市・軽井沢町・御代田町の4市町で構成される
佐久市・北佐久郡環境施設組合が設立 設立式典挙行
- 11月21日 立科町索道事業（スキー場等）あり方研究会議
（会長：三田育雄氏）答申
- 12月14日 衆議院議員総選挙執行

2015【平成27年】

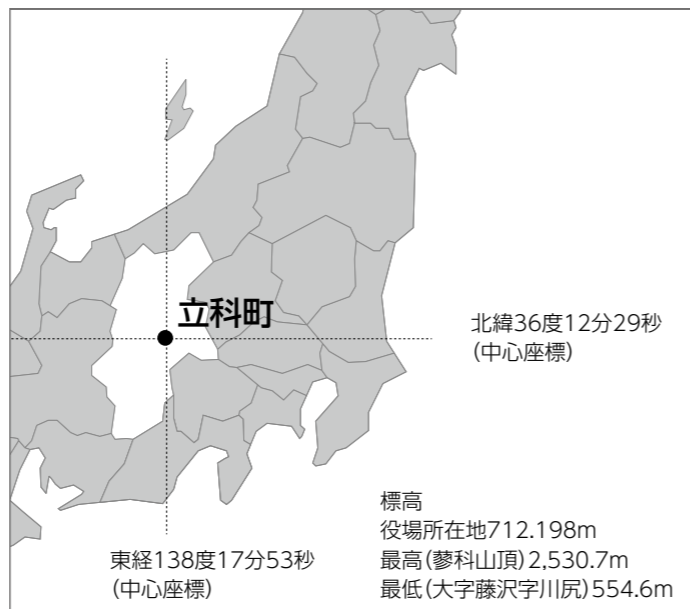
- 2月24日 立科しあわせプラン~第5次立科町振興計画~ 策定
- 3月 6日 立科町の面積改定66.87km²
（国土地理院発表：平成26年10月1日時点）
- 3月26日 東京都清瀬市と友好交流都市協定締結
- 3月29日 東京都豊島区との交流記念 ソメイヨシノ植樹式（交流促進センター）
- 4月12日 長野県議会議員一般選挙執行
立科町から今井正子氏（4期）が当選
- 4月26日 立科町長・立科町議会議員一般選挙執行
町長に米村匡人氏が初当選
- 5月 7日 町議会議長に土屋春江氏、副議長に田中三江氏選出
（女性議長は立科町初、県内市町村議会でも女性正副議長
が同時就任は初）
- 5月16日 副町長に山浦智城氏選任
- 7月 1日 教育長に宮坂晃氏就任
- 8月15日 オレゴン市より姉妹都市親善大使兼英語指導助手（AET）に
ジェフリー・ウイリアム・クルーガー氏就任
- 9月13日 第1回女神湖カヌー駅伝開催
- 11月16日 合併60周年記念式典挙行

立科町の概要

位置

立科町は、長野県の東部に位置し、東は佐久市、西は小県郡長和町、南は茅野市、北は東御市と上田市に接し、南北26.4km、東西9.9kmと南北に細長く、面積は66.87km²です。

八ヶ岳連峰の北山麓に広がり、雄大な蓼科山をはじめとする豊かな自然環境に恵まれた観光と農業の町で、南部は蓼科山麓の高原地帯で、女神湖・白樺湖・蓼科牧場を有する一大リゾート地、北部は山麓から田園地帯へと広がる山麓の大地で、稲作を中心として、りんご・高原野菜・畜産などの農業が盛んです。



合併の経緯

【昭和30年(1955年)4月1日】

芦田村、横鳥村、三都和村の三村が合併し、立科村が発足

【昭和31年(1956年)7月1日】

池ノ平地区境界変更、立科村より1.02km²茅野へ分村

【昭和33年(1958年)10月1日】

町制施行され、立科町となる

【昭和35年(1960年)4月15日】

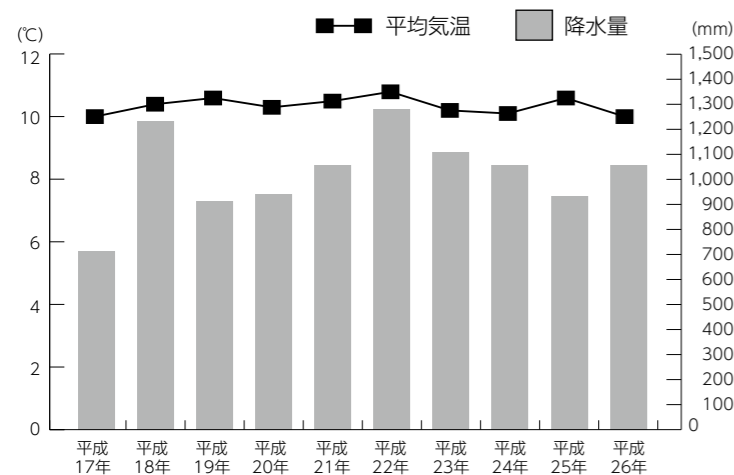
望月町茂田井の大部分、3.34km²が立科町に境界変更

名称の由来

芦田村、横鳥村及び三都和村の三村は蓼科山麓に発達した地方であり、関係村で組織する連合体にすべて「蓼科」の名を冠して住民の感情の融和を図っていました。また、三ヶ村組合立蓼科高等学校があったことから、住民のほとんどが新村名「蓼科村」は既定のことと認めていました。しかし、当用漢字に「蓼」の字がないことと、蓼科山は古代立科山と呼ばれていたことから「立科村」に異議なく決定されました。その後「立科町」となりました。

気象

気候は四季の変化に富み、昼夜の温度差と季節の温度差が大きく、年間の平均気温は約10℃。夏は涼しく過ごしやすいものの、冬の寒気は厳しく、氷点下に達する日も珍しくありませんが、晴天日数が多く、日照時間の長さは全国トップレベル。年間降水量は約1,000mmと全国的にも雨が少なく、地域全体としては総じて過ごしやすい気候となっています。

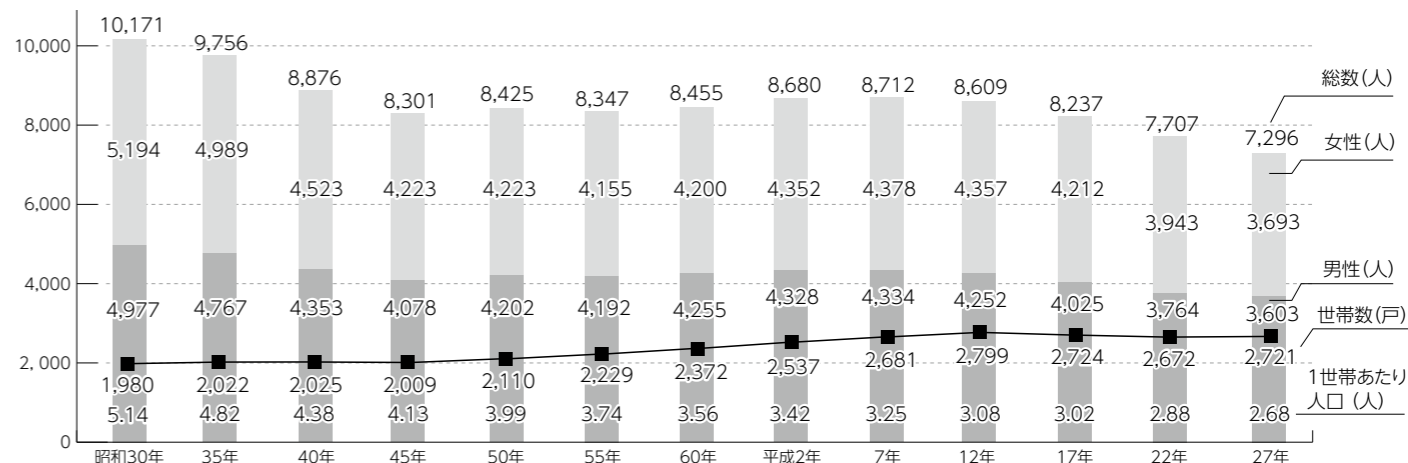


年 度	最高気温	最低気温	日照時間
平成17年	33.6	-17.9	2106.6
平成18年	34.2	-15.0	1904.7
平成19年	33.9	-13.7	2074.1
平成20年	33.7	-15.5	1988.1
平成21年	32.6	-15.1	1992.6
平成22年	34.6	-14.6	2077.3
平成23年	34.3	-16.5	2192.6
平成24年	34.4	-19.5	2165.7
平成25年	35.5	-16.9	2366.7
平成26年	34.9	-15.8	2214.2

※気象庁「過去の気象データ」より

人口

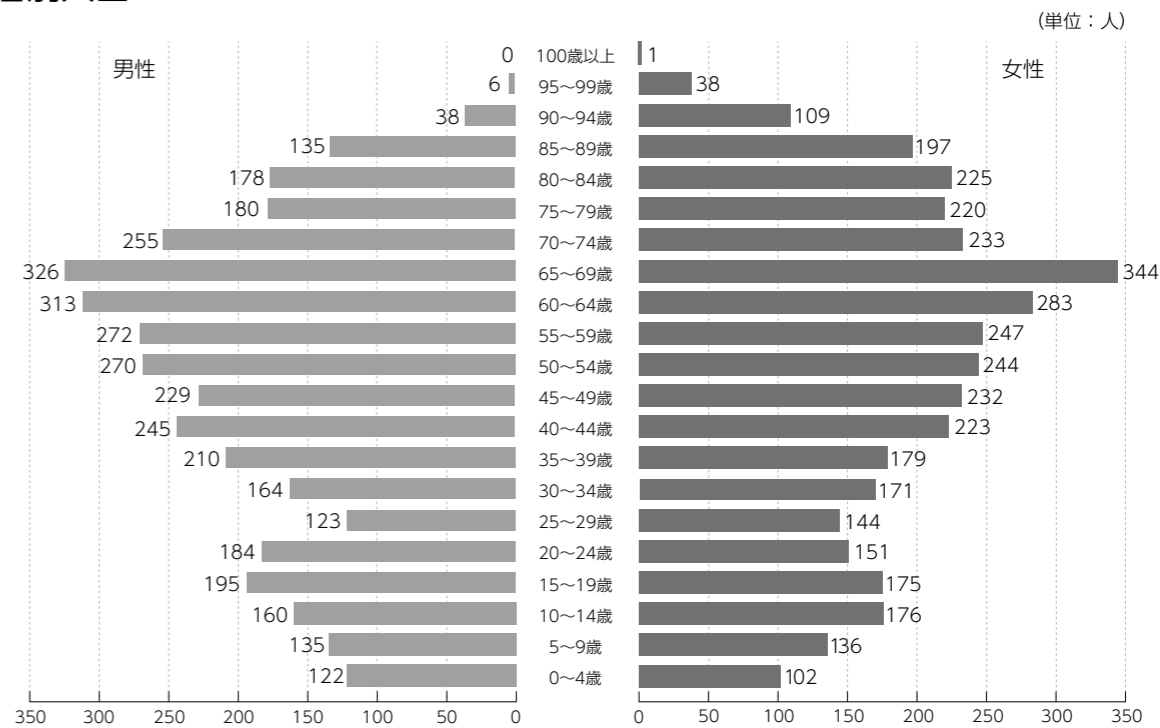
人口及び世帯数



資料：国勢調査、平成27年は長野県毎月人口異動調査結果(4月1日)長野県発表

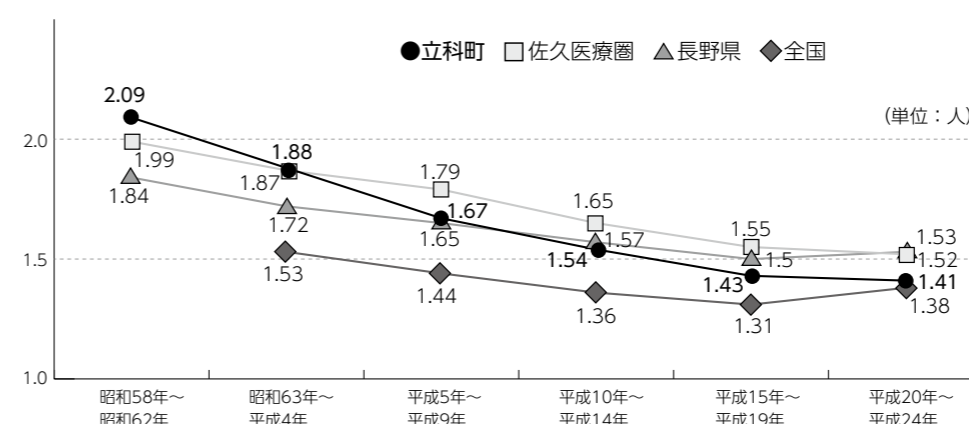
年齢階層別人口

平成27年4月1日現在



資料：住民基本台帳

合計特殊出生率



資料：厚生労働省人口動態保健所・市区町村別統計
※合計特殊出生率=母の年齢別出生数÷年齢別女子人口(15歳から49歳までの合計)

出生数	(単位:人)	調査時点
昭和40年	99	S4.4.1
昭和45年	89	S45.4.1
昭和50年	119	S50.4.1
昭和55年	91	S55.4.1
昭和60年	89	S60.4.1
平成2年	68	H2.4.1
平成7年	67	H7.4.1
平成12年	71	H12.4.1
平成17年	57	H17.4.1
平成22年	40	H22.4.1
平成23年	47	H23.4.1
平成24年	33	H24.4.1
平成25年	45	H25.4.1
平成26年	35	H26.1.1

住民基本台帳年報報告数値

国民健康保険給付状況

(単位:千円)

年度	世帯数	被保険者数	医療給付(一般+退職)			医療給付(老人)		
			件数	費用額	給付額	件数	費用額	給付額
昭和50年	1,498	4,708	27,235	247,248	172,676	5,472	83,103	58,172
昭和60年	1,333	3,684	20,237	293,678	208,040	6,492	152,604	14,948
平成2年	1,335	3,334	20,156	328,814	233,406	9,925	334,326	323,090
平成7年	1,302	3,025	18,284	371,293	268,594	12,519	402,837	381,382
平成12年	1,477	3,201	21,123	416,473	296,021	20,258	626,057	576,456
平成17年	1,657	3,454	30,631	524,525	387,457	25,895	639,692	570,869
平成22年	1,273	2,361	32,477	610,887	446,800	-	-	-
平成26年	1,243	2,258	34,662	704,698	515,090	-	-	-

年度	高額療養費		助産費		埋葬費		育児手当	
	件数	給付額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
昭和50年	404	12,518	36	1,200	52	156	35	105
昭和60年	312	22,508	24	2,430	38	494	22	65
平成2年	645	26,631	18	2,430	41	595	6	18
平成7年	330	25,905	7	2,100	47	776	-	-
平成12年	362	31,318	14	4,200	48	864	-	-
平成17年	475	31,875	8	2,400	68	1,292	-	-
平成22年	1,252	41,816	5	2,100	16	360	-	-
平成26年	1,028	65,367	3	1,260	8	185	-	-

※平成3年度より助産費と育児手当が一緒になり出産育児一時金となる。
※平成20年度より後期高齢者医療制度へ移行

一人当り医療給付費

(単位:円)

年度	一般+退職	老人
昭和50年	59,136	157,690
昭和60年	94,826	259,974
平成2年	125,645	466,284
平成7年	167,324	499,798
平成12年	194,160	592,857

(単位:円)

年度	一般+退職	老人
平成17年	218,643	606,324
平成22年	258,740	-
平成26年	312,089	-

※平成20年度より後期高齢者医療制度へ移行

各種検診受診状況

(単位:人)

年度	検診名								
	結核(肺ガン) 18歳以上(平成17年 から40歳以上)	肺ガンCT 40歳以上	肺結核 65歳以上	胃がん 30歳以上	大腸がん 30歳以上	成人病 30歳以上	特定健診 30~39歳 40~74歳国保 75歳以上		
昭和60年	2,514			758		1,134			
平成2年	2,708			722	573	1,414			
平成7年	2,708			653	724	1,376			
平成12年	2,417			458	559	1,243			
平成17年	1,678			296	473	936			
平成22年	平成20年度から 肺ガンCT、 肺結核健診へ	343	828	279	535	平成20年度から 特定健診へ	42	477	117
平成26年		337	770	279	627		46	562	263

年度	検診名			
	子宮がん 30歳以上(平成17年より 20歳以上偶数年齢)	乳がん 30歳以上	超音波 30~39歳	マンモグラフィ 40歳以上偶数年齢
昭和60年	316	283		
平成2年	372	381		
平成7年	384	360		
平成12年	297	311		
平成17年	121	平成17年から 超音波、 マンモグラフィ 健診へ	9	101
平成22年	213		55	179
平成26年	206		39	166

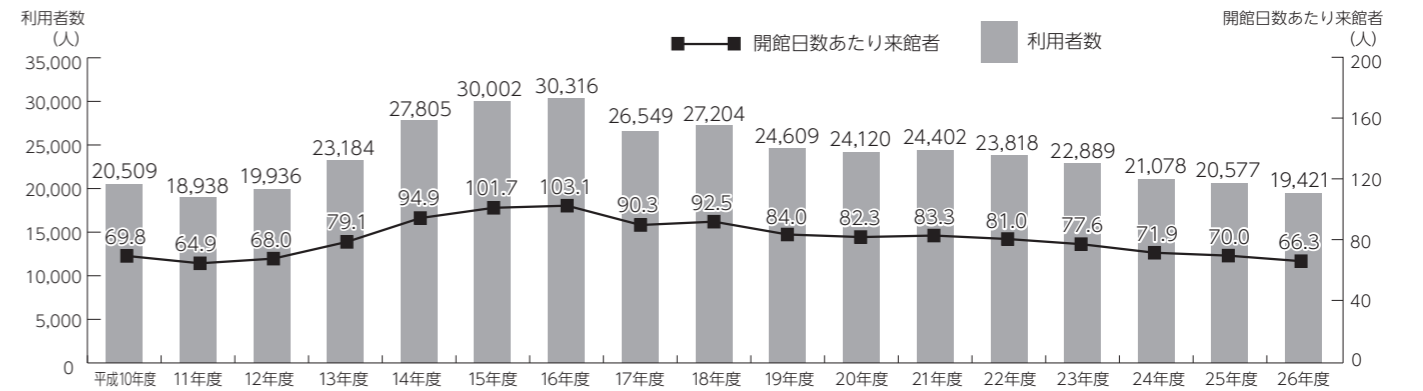
保育所入所者数

(単位:人)

年度	千草保育園		若草保育園		三葉保育園		茂田井保育園	
	定員	入所者数	定員	入所者数	定員	入所者数	定員	入所者数
昭和50年	100	100	90	80	60	53	52	41
昭和60年	120	107	90	90	80	65	40	33
平成2年	115	100	90	84	80	76	40	24
平成7年	115	92	110	78	60	50	40	26
平成12年	115	96	60	61	45	35	40	33
平成17年	115	72	80	62	45	50	40	18
平成22年	95	67	55	45	55	43		
たてしな保育園								
定員								
平成25年	200				162			
平成27年	200				163			

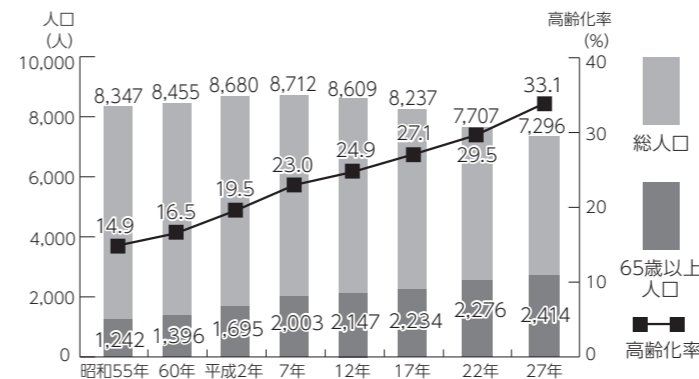
資料:福祉行政報告例 ※茂田井保育園は、平成18年3月に閉園

児童館開館日数・利用者数



高齢者人口と高齢化率

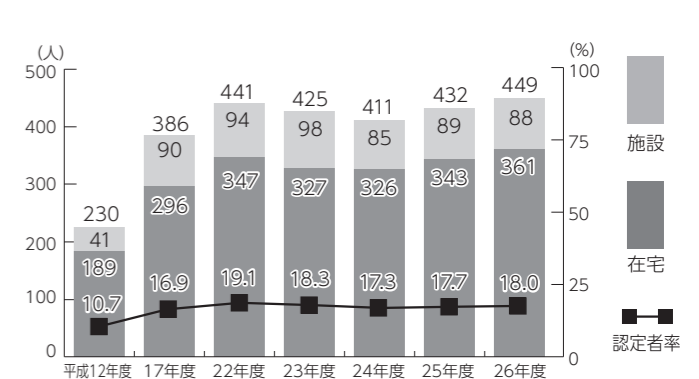
平成27年4月1日現在



資料:国勢調査、平成27年は長野県毎月人口異動調査結果(4月1日現在)長野県発表

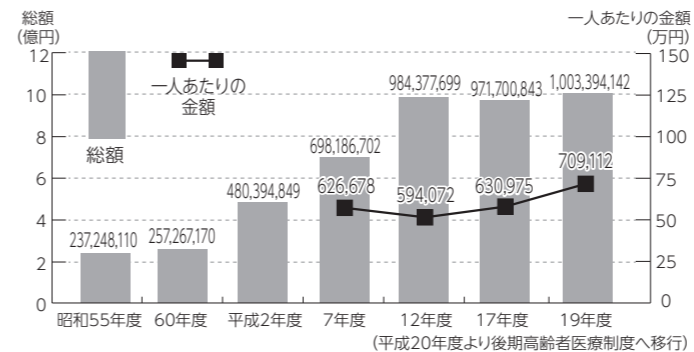
在宅・施設別要介護認定者数

3月31日現在



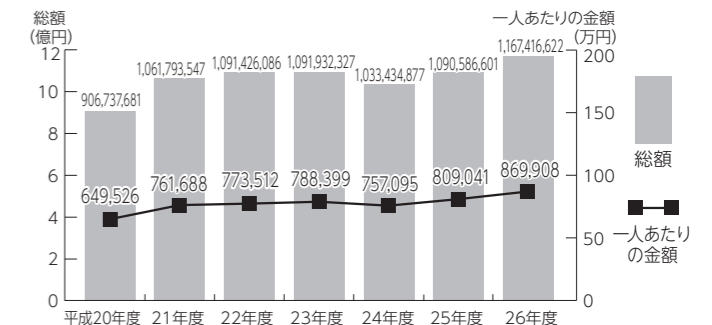
※平成12年度は4月1日現在 資料:立科町高齢者福祉計画 介護保険事業計画書

老人医療費の推移

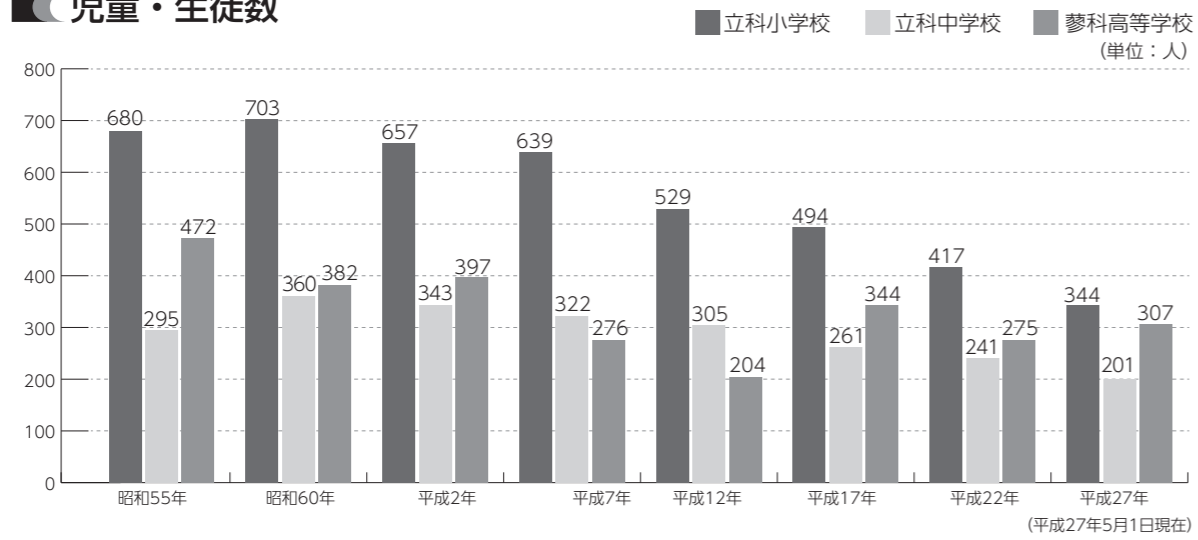


(平成20年度より後期高齢者医療制度へ移行)

後期高齢者医療制度(75歳以上)総医療費の推移



児童・生徒数



文化財

指定	種別	名称	所在地	指定年月日
長野県	天然記念物	笠取峠のマツ並木	町	昭和49年1月17日
	県宝	津金寺宝塔	上房	昭和49年3月22日
	県宝	旧芦田宿本陣土屋家住宅	町	昭和63年8月18日
立科町	天然記念物	ヒメツルコケモモ	蓼科	昭和41年7月15日
	天然記念物	神代杉	古町	昭和42年6月17日
	史跡	与惣塚	蓼科	昭和42年6月17日
	史跡	芦田城跡	古町	昭和42年6月17日
	史跡	一里塚	町	昭和42年6月17日
	史跡	鳴石	蓼科	昭和42年6月17日
	天然記念物	ミヤマシロチョウ	蓼科	昭和53年5月10日
	史跡	宇山堰石樋	蓼科	昭和58年6月1日
	民俗資料	古町区蓼科神社秋祭用奉納屋台及び雅楽一式	古町	平成2年12月10日
	有形文化財	津金寺妙見堂	上房	平成4年6月11日
	有形文化財	津金寺観音堂	上房	平成4年6月11日
	天然記念物	天狗松	中尾	平成5年12月8日

公民館図書室利用状況

項目	年度	(単位:人)									
		平成2年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	
開室日数		288	291	348	353	318	355	353	348	350	
来室数(人)	児童	6,385	5,267	5,251	3,990	2,779	2,938	3,797	2,881	2,915	
	一般	1,668	1,425	2,247	3,082	3,010	3,366	3,478	3,677	3,670	
	計	8,053	6,692	7,498	7,072	5,789	6,304	7,275	6,558	6,585	
	一日平均来室者数	28	23	22	20	18	18	21	19	19	
貸出数(冊)	児童	2,332	1,354	2,342	3,247	5,086	4,780	5,137	4,407	5,013	
	一般	2,224	1,871	3,057	3,191	4,528	5,320	5,396	4,960	4,787	
	計	4,556	3,225	5,399	6,438	9,614	10,100	10,533	9,367	9,800	
	一日平均貸出数	16	11	16	18	30	28	30	27	28	

※9月休館(図書システム導入へ) ※貸出冊数2冊から4冊へ

国・県道の概況

道路区分		路線名	実延長(m)	改良済み延長(m)	改良率(%)	歩道延長(m)
国道	一般国道	142号	4,940.8	4,940.8	100.0	3,859.3
		254号	2,911.1	2,047.5	70.3	677.3
小計			7,851.9	6,988.3	89.0	4,536.6
県道	一般県道	諏訪白樺湖小諸線	40,592.5	39,947.6	98.4	14,836.3
		芦田大屋(停)線	6,745.8	6,234.0	92.4	4,330.4
		牛鹿望月線	4,689.2	2,781.3	59.3	1,527.3
		雨境望月線	132.5	126.8	95.7	0.0
		立科小諸線	2,227.7	1,739.2	78.1	0.0
		丸子北御牧東部線	1,355.3	1,061.4	78.3	0.0
		茅野(停)八子ヶ峰公園線	1,597.0	1,597.0	100.0	0.0
小計			57,340.0	53,487.3	93.3	20,694.0
合計			65,191.9	60,475.6	92.8	25,230.6

平成26年4月1日現在

資料:道路現況(長野県建設部)

町道の級別概況

種別	路線数	実延長(m)	改良済み延長(m)	改良率(%)	舗装済延長(m)	舗装率(%)	歩道延長(m)
1級	63	70,383.6	58,460.9	83.1	70,148.8	99.7	11,305.4
2級	66	39,728.6	12,997.8	32.7	36,975.0	93.1	720.5
3級	107	65,883.4	23,488.2	35.7	56,530.8	85.8	186.5
級外	391	138,358.6	18,540.6	13.4	56,530.8	66.5	327.2
計	627	314,354.2	113,487.5	36.1	255,677.6	81.3	12,539.6

平成27年3月31日現在

橋梁の概況

種類	国道			県道			町道		
	数	延長(m)	面積(m ²)	数	延長(m)	面積(m ²)	数	延長(m)	面積(m ²)
永久橋	2	38.2	496.6	15	96.2	949.4	69	506.7	2160.29

平成27年3月31日現在

河川の現況

種類	数	延長(m)	河川名	
			数	延長(m)
一級河川	3	30,568	芦田川、番屋川、赤沢川	
砂防指定河川	2	5,500	小桶沢川、西の沢川	
準用河川	4	6,590	蟹原川、牛鹿川、植木沢川、赤沢川上流部分	
普通河川	20	14,715	宮沢川ほか	

平成27年3月31日現在

水道の現況

平成27年4月1日現在

種別	上水道	姥・中尾簡易水道	夢の平簡易水道	白樺簡易水道	計
計画給水人口(人)	11,900	105	500	300	12,805
給水世帯数(戸)	2,620	27	137	95	2,879
現在給水人口(人)	7,208	64	256	136	7,664
配水池有効容量(m ³)	3,782	230	6,154	2,132	12,298
年間給水量(m ³)	993,658	33,336	336,215	62,409	1,425,618
年間有収水量(m ³)	734,456	9,773	157,362	46,058	947,649
日最大計画給水量(m ³ /日)	5,785	227	4,600	1,400	12,012

下水道等整備状況

平成27年4月1日現在

人口	下水道処理人口 7,669人			
整備状況	整備率 98.3% (7,538人)			
事業別	特定環境保全公共下水道	農業集落排水事業	コミュニティプラント	その他(合併浄化槽含)
人口(人)※外国人を含む	3,500	3,465	234	339
比率(%)	46.4	50.0	3.1	4.5

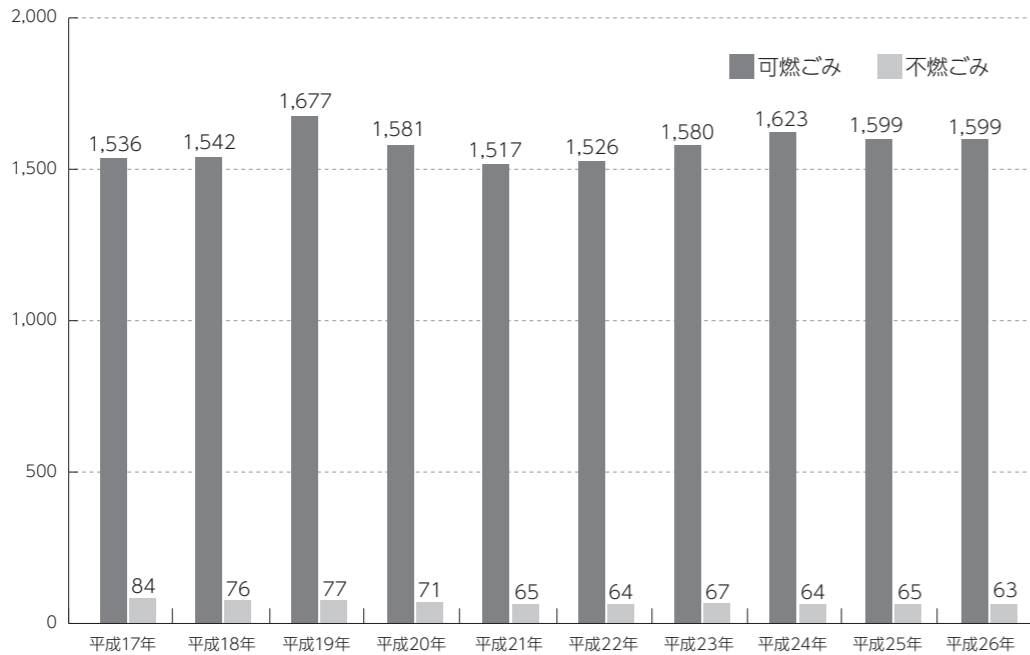
汚水人口普及率の推移

(単位：%)

平成7年度	27.0
平成12年度	91.8
平成17年度	96.3
平成22年度	97.7
平成26年度	97.7

川西清掃センターへの可燃ごみ・不燃ごみ搬入量

(単位：t)



資料：一般廃棄物処理実態調査(環境省)

耕地面積

単位：ヘクタール

年度	統計	田	畑					合計
			果樹園	桑園	たばこ	飼料畑	普通畑他	
昭和50年	1,631	860	131	251	36	93	260	771
昭和55年	1,609	858	115	152	48	110	326	751
昭和60年	1,564	841	125	64	31	108	395	723
平成2年	1,504	828	159	17	14	112	374	676
平成7年	1,460	814	158	14	10	64	398	643
平成12年	1,360	771	149	1	5	58	366	585
平成16年	1,360	758	150	-	-	58	365	573
平成21年	1,320	742	-	-	-	-	-	574
平成25年	1,330	753	-	-	-	-	-	599

※長野県農林業市町村別データの数値を活用
平成7年以降は駐群を含む数値
長野農林統計協会の解散により平成21年以降は畑の内訳数値なし
平成21年以降は長野農林水産統計年報の数値を活用

森林面積

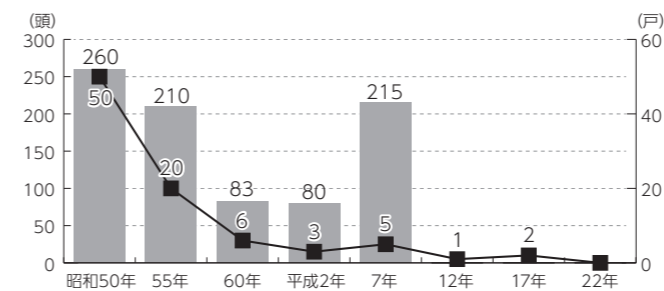
地域総面積		6,682.00ha	
森林面積	国有林	485.01ha	
	民間林	公有林	2,440.64ha
		私有林	933.42ha
	合計	3,859.07ha	
材積	国有林	86,180m ³	
	民間林	677,531m ³	
	合計	763,711m ³	

資料：平成27年度長野県民有林の現況 市町村別統計(4月1日)

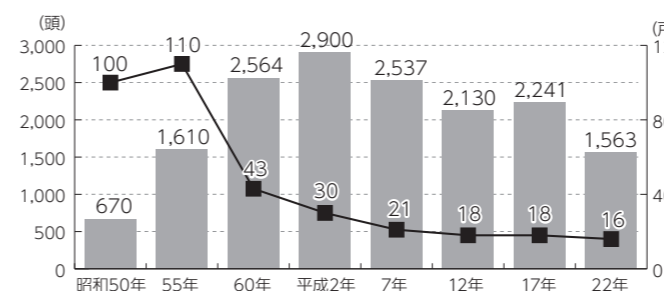
畜産の推移

頭数 ■ 戸数

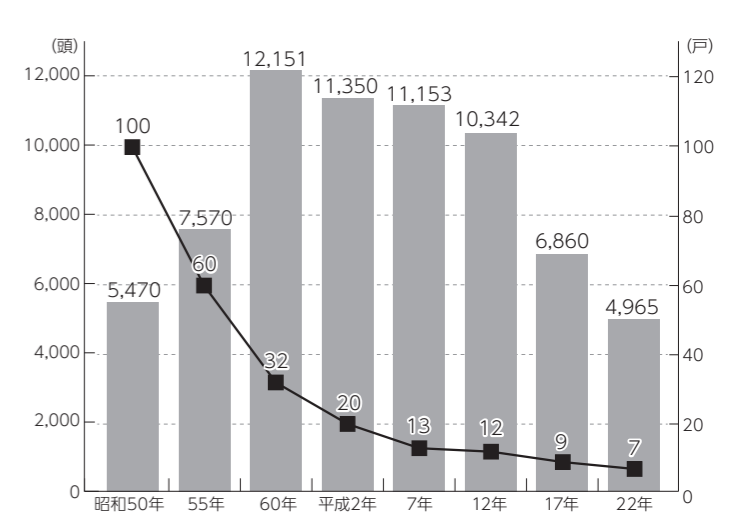
【乳用牛】



【肉用牛】



【豚】



資料：2010年世界農林業センサス

産業

産業大分類別事業所数

(単位：所)

年度	農林漁業	鉱業	建設業	製造業	電気ガス熱供給・水道	運輸通信業	卸売小売業飲食店	金融保険業	不動産業	サービス業					他の分類に属さないもの	
										情報通信	運輸	卸売小売業	飲食店宿泊業	医療福祉		教育学習支援
昭和50年	0	0	52	46	1	5	132	2	1	90					5	
昭和53年	6	2	71	57	1	11	143	3	0	104					5	
昭和56年	6	2	79	62	1	9	147	4	0	101					5	
昭和61年	6	4	77	63	0	3	134	3	1	113					5	
平成3年	6	1	65	52	0	6	119	1	6	166					5	
平成8年	8	1	69	46	1	11	119	3	7	171					6	
平成12年	9	1	83	52	2	13	145	6	7	189					10	
平成18年	10	0	72	50	1	4	7	95	3	8	107	16	17	6	63	8
平成21年	14	0	70	48	0	5	6	95	4	9	104	12	12	6	42	18
平成24年	11	1	63	47	0	5	7	72	5	6	94	13	11	5	36	16

資料：事業所・企業統計調査(昭和50年度～平成18年度)、経済センサス(平成21年度以降)

産業別就業者数(15歳以上)

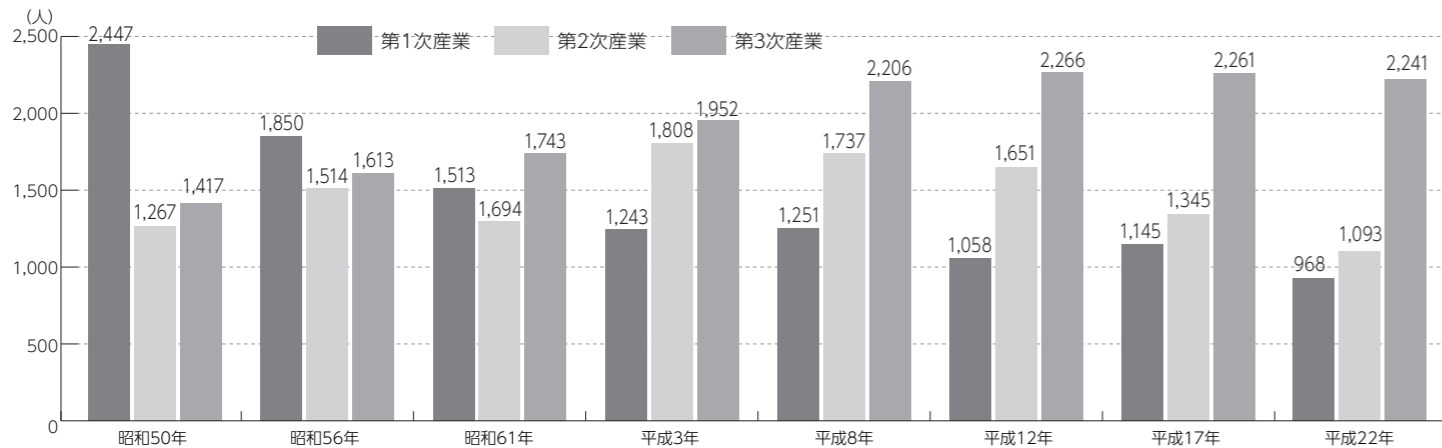
(単位：人)

年度	第1次産業				第2次産業			
	農業	林業	漁業	計	鉱業	建設業	製造業	計
昭和50年	2,440	5	2	2,447	2	304	961	1,267
昭和55年	1,843	4	3	1,850	3	376	1,135	1,514
昭和60年	1,504	9	0	1,513	1	396	1,297	1,694
平成2年	1,226	14	3	1,243	2	464	1,342	1,808
平成7年	1,235	13	3	1,251	3	550	1,184	1,737
平成12年	1,041	16	1	1,058	3	485	1,163	1,651
平成17年	1,130	15	0	1,145	2	307	1,036	1,345
平成22年	953	15	0	968	3	261	829	1,093

(単位：人)

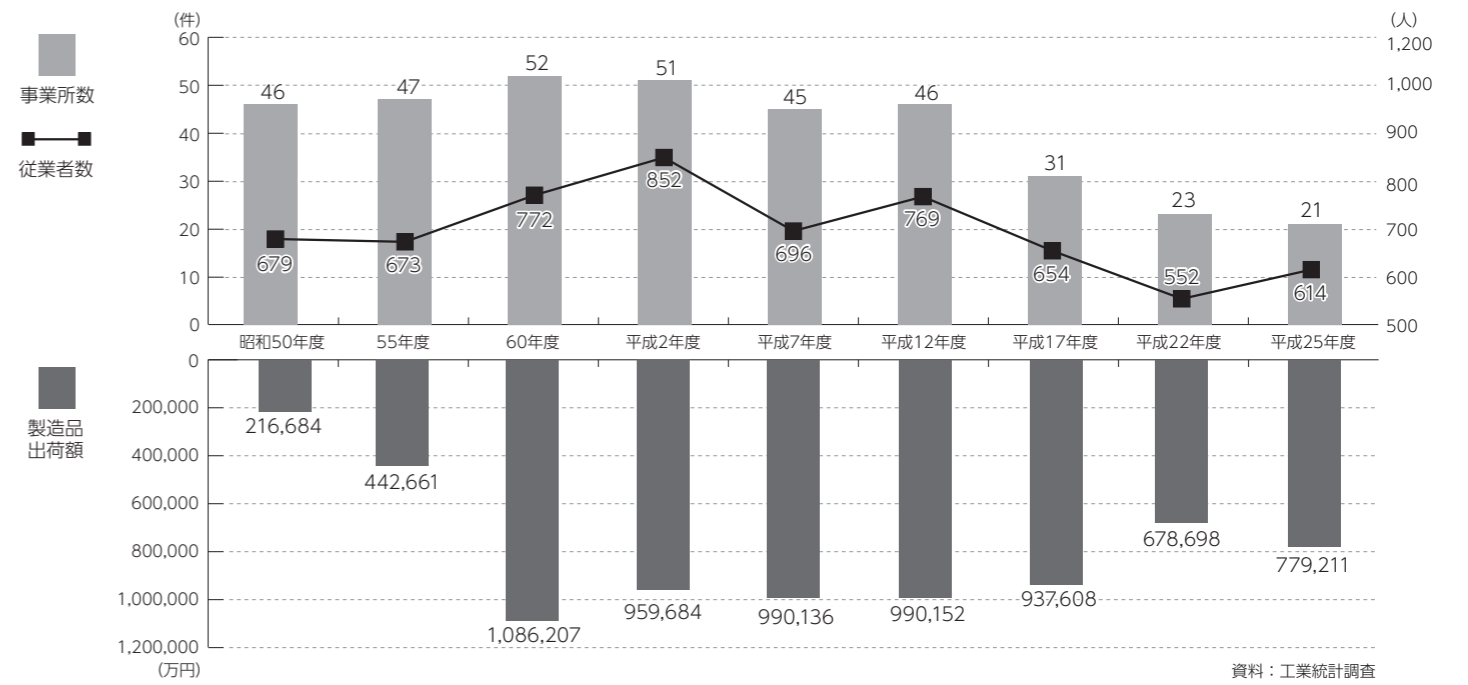
年度	第3次産業											計	
	電気ガス熱供給・水道	運輸・通信業	卸売・小売業飲食店	金融保険業	不動産業	サービス業					他の分類に属さないもの		
昭和50年	4	99	448	26	10	671					159	1,417	
昭和55年	4	124	507	30	11	788					149	1,613	
昭和60年	10	134	455	32	17	970					125	1,743	
平成2年	10	143	444	33	18	1,179					125	1,952	
平成7年	17	157	527	32	37	1,323					113	2,206	
平成12年	13	165	589	42	28	1,313					116	2,266	
平成17年	9	27	114	519	34	15	426	332	128	99	441	117	2,261
平成22年	5	28	125	490	28	41	460	373	135	85	205	266	2,241

資料：国勢調査



産業

工業の概況



資料：工業統計調査

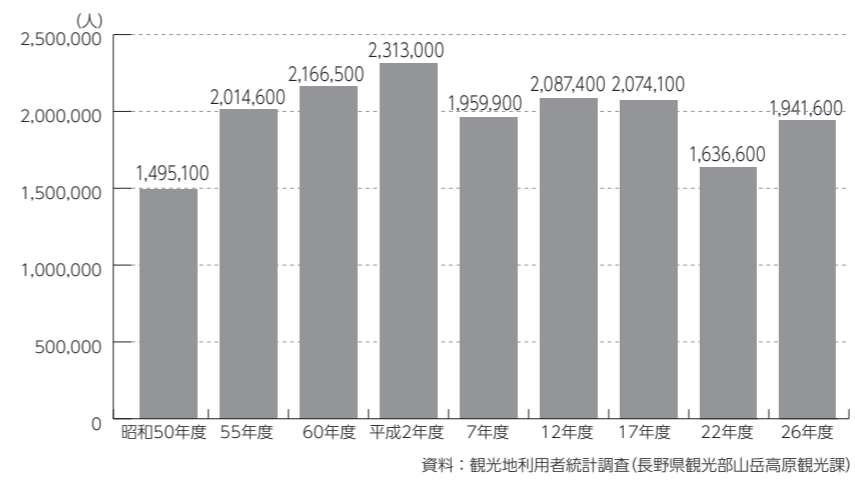
卸売業・小売業 事業所数・従業者数・年間商品販売額

(単位：店・人・万円)

年度	合計			卸売業			小売業			飲食業		
	事業所数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	年間商品販売額	事業所数	従業者数	年間商品販売額
昭和60・61年	136	336	566,636	3	13	29,500	103	246	506,727	30	77	30,409
昭和63・平成元年	126	325	470,979	3	21	43,820	92	229	391,204	31	75	35,955
平成3・4年	121	352	748,678	3	26	232,880	90	251	465,739	28	75	50,059
平成6年	91	318	889,715	4	27	327,720	87	291	561,995	—	—	—
平成9年	82	280	735,617	3	18	239,449	79	262	496,168	—	—	—
平成11年	91	307	764,008	4	23	226,773	87	284	537,235	—	—	—
平成14年	97	350	773,160	3	18	173,676	94	332	559,484	—	—	—
平成16年	103	386	778,857	7	22	166,415	96	364	612,442	—	—	—
平成19年	92	417	713,885	10	27	119,566	82	390	594,319	—	—	—
平成24年	58	323	858,600	5	28	305,100	53	295	553,500	—	—	—

資料：商業統計調査、経済センサス(平成24年)

観光客数の推移



資料：観光地利用者統計調査(長野県観光部山岳高原観光課)

町営リフト利用者の推移

(単位：人)

年度	夏山リフト	スキー場来場者数	合計
平成2年度	128,836	423,370	552,206
平成7年度	79,225	368,870	448,095
平成12年度	69,037	238,300	307,337
平成17年度	45,834	182,000	227,834
平成22年度	40,312	125,500	165,812
平成26年度	32,845	126,000	158,845

資料：立科町観光課営業実績数値
スキー・スケート場利用統計調査(長野県観光部山岳高原観光課)

税収入の移り変わり

(単位：千円)

税目年度	町民税		固定資産税		軽自動車税		たばこ税		電気税		その他		合計		収納率 %
	調定額	収入額	調定額	収入額	調定額	収入額	調定額	収入額	調定額	収入額	調定額	収入額	調定額	収入額	
昭和55年度	161,358	161,358	143,061	143,061	7,674	7,674	28,656	28,656	22,763	22,763	3,913	3,913	367,425	367,425	100.0%
昭和60年度	242,408	241,298	249,389	246,920	11,250	11,214	36,121	36,121	36,784	36,784	49	49	576,001	572,386	99.4%
平成2年度	358,744	356,911	439,613	428,622	13,531	13,500	37,354	37,354	-	-	23	23	849,265	836,410	98.5%
平成7年度	421,684	418,157	582,604	571,351	16,529	16,444	38,027	38,027	-	-	-	-	1,058,844	1,043,979	98.6%
平成12年度	347,904	331,388	582,535	538,780	19,804	19,086	44,324	44,324	-	-	-	-	994,567	933,578	93.9%
平成17年度	296,927	280,430	607,280	522,809	22,730	21,661	40,527	40,527	-	-	-	-	967,464	865,427	89.5%
平成22年度	347,801	319,600	627,463	472,767	24,741	23,553	35,242	35,242			275	275	1,035,522	851,437	82.2%
平成23年度	368,172	341,103	642,890	480,350	24,864	23,698	42,055	42,055			2,952	2,952	1,080,933	890,158	82.4%
平成24年度	359,466	333,958	622,046	455,960	24,775	23,544	40,775	40,775			3,339	3,339	1,050,401	857,576	81.6%
平成25年度	348,659	324,499	608,570	450,415	24,994	23,574	45,358	45,358			15,965	15,965	1,043,546	859,811	82.4%
平成26年度	350,013	325,781	622,082	455,148	25,579	24,060	45,436	45,436			28,007	28,007	1,071,117	878,432	82.0%

(注)たばこ税：昭和63年度までは「たばこ消費税」/電気税：平成元年度より廃止/その他：平成2年度までは特別土地保有税、平成22年度からは入湯税

歳入・歳出の決算状況

一般会計決算の移り変わり【歳入】

(単位：千円)

	昭和50年度	昭和60年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成26年度
町税	165,916	572,386	1,043,979	933,578	865,427	851,437	878,432
地方譲与税	12,208	37,092	103,596	71,304	112,786	70,459	59,469
利子割交付金			24,069	37,804	4,664	3,351	1,430
配当割交付金					1,457	846	4,061
株式等譲渡所得割交付金					2,405	315	3,083
地方消費税				80,710	84,414	78,096	89,522
ゴルフ場利用税交付金			14,491	16,822	11,060	10,681	9,092
特別地方消費税交付金			10,980	3,568			
自動車取得税交付金	14,953	27,432	53,520	38,169	34,193	15,560	6,288
地方特例交付税				29,572	22,958	13,305	2,211
地方交付税	405,980	786,113	1,965,175	2,120,218	1,908,927	1,891,451	1,835,126
交通安全対策特別交付金	997	639	1,416	1,504	1,149	927	774
分担金・負担金	26,578	43,533	93,545	73,340	70,923	47,846	42,052
使用料・手数料	34,481	98,945	56,305	175,067	154,427	134,277	150,068
国庫支出金	122,295	112,177	285,750	94,528	102,729	661,911	284,041
県支出金	57,395	269,970	479,355	268,798	154,556	206,240	258,393
財産収入	341,372	220,513	286,464	206,349	161,313	150,830	159,549
寄附金	3,498	4,122	22,165	28,024	22,479	22,850	73,245
繰入金		99,000	814,613	155,373	14,851	10,588	8,618
繰越金	51,878	81,221	101,955	72,059	136,214	352,052	918,421
諸収入	24,365	65,062	92,030	68,312	41,959	129,195	152,441
町債	71,300	156,600	748,100	569,300	192,900	286,900	313,300
合計	1,333,216	2,574,805	6,197,508	5,044,399	4,101,791	4,939,117	5,249,616

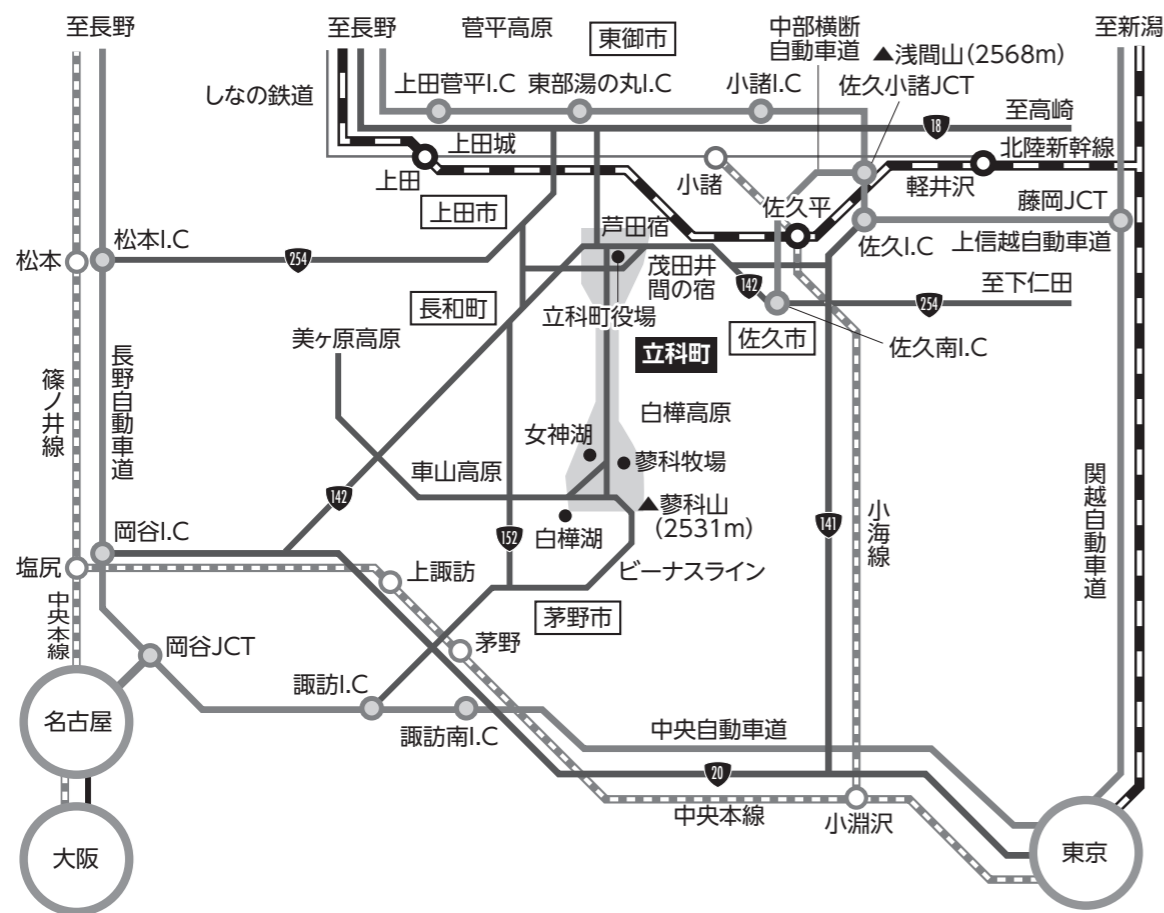
一般会計の移り変わり【歳出】

(単位：千円)

	昭和50年度	昭和60年度	平成7年度	平成12年度	平成17年度	平成22年度	平成26年度
議会費	18,625	44,941	91,051	80,896	75,005	59,284	69,628
総務費	253,142	534,694	1,181,897	905,510	684,483	1,347,875	806,263
民生費	176,015	277,062	1,032,017	731,472	718,299	803,912	1,018,526
衛生費	24,342	102,946	196,353	228,486	297,324	298,466	321,899
農林水産業費	117,228	506,462	662,295	370,370	161,379	180,361	252,734
商工費	74,828	104,000	433,725	331,608	200,843	188,986	272,360
土木費	68,254	249,156	1,378,827	984,691	629,548	649,111	792,661
消防費	34,297	100,289	186,653	145,579	141,220	171,938	160,096
教育費	440,524	277,277	491,225	454,348	309,406	292,967	318,092
災害復旧費	18,923	40,897	8,319	2,819	70	19,897	25,971
公債費	38,143	224,538	437,958	757,693	678,889	381,211	314,472
諸支出金							
合計	1,264,321	2,462,262	6,100,320	4,993,472	3,897,101	4,394,008	4,352,702

施設名	所在地 (立科町)	電話 (0267)	有線
立科町役場	芦田2532	56-2311	2311
立科町中央公民館	芦田2523	56-2311	4000
立科町老人福祉センター・保健センター	芦田2523	56-1825	4091
高齢者生きがいセンター	芦田2529-1	56-1825	4114
たてしな人権センター	芦田2529-15	56-0059	5936
共生いきがいセンター	芦田2525-1	56-3721	4321
立科温泉権現の湯	山部363-2	56-0606	4126
立科町子ども未来館 (児童館)	芦田3752-9	56-0248	8888
心かよう館 (太鼓道場)	芦田3752-1		3009
権現山運動公園 (クラブハウス)	山部353-1		6042
権現山屋内運動場	山部353-12		6042
体育センター (総合体育館)	芦田3752-1	56-3373	3008
立科町青少年交流センター (スカウトハウス)	芦田2529-15		2651
立科町ふるさと交流館「芦田宿」	芦田2602-1 問い合わせ 総合政策課	56-2311	2311
立科町土地改良区	芦田2532	56-1133	2170
交流促進センター「耕福館」	茂田井2471-1	51-4151	4200
クラインガルテン	問い合わせ 農林課	56-2311	2311
たてしな保育園	芦田2991-6	56-0022	2100
立科小学校	芦田3700	56-3131	2190
立科中学校	芦田3265-1	56-1076	2251
陣内森林公園	芦田5352-1	56-1085	
白樺高原総合観光センター	芦田八ヶ野745	55-6201	
白樺高原国際スキー場	問い合わせ 観光課	55-6201	
しらかば2in1スキー場	問い合わせ 観光課	55-6201	
蓼科ふれあいセンター	芦田八ヶ野1001 問い合わせ 観光課	55-6201	
蓼科ふれあい健康支援センター女神	芦田八ヶ野1000-1	55-6151	
女神湖スポーツ広場1530	問い合わせ 観光課	55-6201	
夢の平キャンプ場 (5~10月)	問い合わせ 観光課	55-6201	
蓼科野外音楽ホール	芦田八ヶ野1047 問い合わせ 観光課	55-6201	
御泉水自然園ビジターセンター (4~10月)	芦田八ヶ野709	55-6131	
蓼科牧場ゴンドラリフト	問い合わせ 観光課	55-6201	
蓼科ふれあい牧場・蓼科第二牧場	問い合わせ 観光課	55-6201	
蓼科ふれあい健康支援センター女神	芦田八ヶ野1000-1	55-6151	
女神湖センター	芦田八ヶ野982	55-6210	

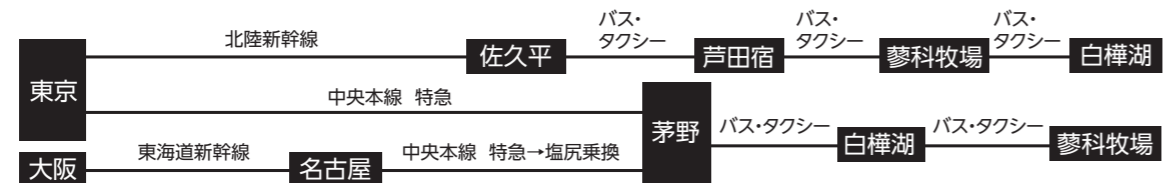
アクセス



自動車



電車・バス・タクシー



【町章】

雄大な山々をまるく治め、美しい自然に囲まれ、
未来に向かって雄々しく立つ立科町の姿を
「立」の字に託して図案化したものである。

昭和38年(1963年)5月8日制定

【町民憲章】

わたくしたちは、躍進する立科町の町民です。すすんで
力をあわせ、愛する郷土の未来をひらきます。
躍進と発展が立科町の最大の特徴であることを自覚し、
誇りをもつ町民となります。そして、すすんでまちづくりに
参加し、和協一致の精神で、総意を結集して、愛する郷
土立科町の輝かしい未来をひらくことを、一人ひとりの胸
に誓います。

◆美しいまちをつくりましょう。

- 自然を愛します。
- まわりをきれいにします。
- 公共物を大切にします。

◆明るいまちをつくりましょう。

- スポーツに親しみます。
- 公衆衛生を重んじます。
- 安全にらせるようにします。

◆あたたかいまちをつくりましょう。

- 生涯教育をすすめて、教養を高めます。
- 伝統を育て、文化財を大切にします。
- なごやかな家庭をつくり、あたたかく人に接します。

◆豊かなまちをつくりましょう。

- 仕事に生きがいを求めます。
- よく考え希望をもって働きます。
- たがいに仕事を理解しあいます。

◆住みよいまちをつくりましょう。

- すすんでまちづくりに参加します。
- きまりを正しく守ります。
- たがいに助けあい仲間づくりをすすめます。



立科町マスコットキャラクター
しいなちゃん

【しいなちゃん】

しいなちゃんは、立科に住む元気いっぱい女の子。
町章入りの帽子は木々の黄緑、
帽子のボンボンはずずらんの花。
真っ赤でツヤツヤピカピカの耳あてはりんご。
水色の髪の毛は清らかな川などの流れ・しずく。
ワンピースは白樺の木。
ポケットから蓼科牛が顔を出しています。
緑の靴は大地の恵を表現しました。
立科町の食べ物大好きで、みんなに立科町の良さを
知って欲しいと思っています。



信州・立科町

【ロゴマーク】

立科町の「た」の文字をデザイン化。
四季折々楽しめる、
高原のリゾート気分いっぱいの
さわやかなイメージを「た」の文字を使い、
立科町の豊かな自然の風景をデザイン的に表現。
また、「た」の文字の中心に顔を入れることで、
さわやかなブランドマークとなるよう
デザインされました。



町木【シラカバ】



町鳥【キジ】



町花【スズラン】